

平成28年度 第1回 久留米市総合教育会議

平成28年7月25日
久留米市庁舎303会議室

次 第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 平成28年度 総合教育会議の運営について
- 4 議題 久留米市の児童生徒の学力の保障と向上について
- 5 その他
- 6 閉会

平成28年度 総合教育会議の運営について

1 基本的な考え方

総合教育会議は、教育委員会の権限に属する事務に関して、予算の編成や執行、条例の提案、青少年の健全育成などの首長の権限に属する事務との調和を図るとともに、首長と教育委員会が共通の認識に立つことを目的として、自由に意見交換するために行われるものである。

2 平成28年度の議題

平成27年度の総合教育会議は、教育に関する大綱及び第3期久留米市教育改革プランの策定を議題に据えて運営してきた。

このことを受けて、平成28年度の総合教育会議は、教育行政の重要な課題であり、かつ教育改革プランの重点の一つである「学力の保障と向上について」を議題とする。

3 会議の運営について

第1回（平成28年7月25日開催）

久留米市が学力の保障と向上に取り組む意義等を明らかにするとともに、久留米市の児童生徒の学力の状況を様々な角度から分析した内容、及びそれらから導き出される課題を提示する。

そのうえで、久留米市の状況と課題等について、市長と教育委員会が共通の認識に立つことを目的とする。

第2回（平成28年10～11月頃）

平成28年度の全国学力・学習状況調査の結果が出るのを受けて、当該結果及び分析内容の報告を行う。併せて、学力が高い先進自治体の取り組みを紹介し、それらをもとにした議論を行う。

第3回（平成28年12～平成29年1月頃）

教育改革プランに掲げる事務事業の進捗状況を報告し、市長と教育委員会による評価や意見をいただくとともに、新年度に向けた事務事業の方向性を明らかにする。

平成28年度 第1回 久留米市総合教育会議

議題

久留米市の児童生徒の学力の保障と向上について

平成28年7月25日

久留米市の児童生徒の学力の保障と向上について

1 学力の保障と向上の意義と効果

久留米市は、今年度からスタートした第3期久留米市教育改革プランの重点に「学力の保障と向上」を掲げており、その意義と効果は次のとおりです。

(1) 持続可能で活力ある社会を実現する

人口減少と超高齢化が進行する中、持続可能で活力ある社会を実現するためには、未来を担う子どもたちが多様な個性や能力を開花させる必要があります、「教育」はそのための基盤となります。

(2) ふるさと久留米に貢献する

学力に関する指標が良い方向に伸び、久留米市の教育の充実が成果として表れると、都市の魅力が高まり、人口の増加に資する要因となります。また、久留米に愛着と誇りを持った子どもたちが成長し、多彩な分野で活躍することは、久留米のまちづくりへの将来的な貢献につながります。

(3) 子どもたち一人ひとりが社会を生き抜く

子どもたちが学びへの意欲を持ち、学ぶ楽しさを実感しながら、基本的な知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力を伸ばすことによって、情報化やグローバル化の進展変化の激しい社会をたくましく生き抜くことができるようになります。

(4) 次世代への貧困の連鎖を断ち切る

家庭の経済状況にかかわらず、子どもたちが質の高い教育を受けて基本的な生活習慣や学力を身に付け、夢や目標に挑戦できるようにすることで、学力の較差が次世代への貧困につながることを阻止します。

2 学力の測定方法（全国学力・学習状況調査）の概要

(1) 基本的な考え方

全国の子童生徒に対する悉皆調査という特性を有する「全国学力・学習状況調査」の結果をもとに、久留米市の子童生徒の学力状況を分析します。

(2) 全国学力・学習状況調査について

① 概要

全国学力・学習状況調査は「教科に関する調査」と「生活習慣や学校環境に関する調査」で構成され、平成19年度から小学6年生と中学3年生に対して、毎年度4月に実施されています。

② 調査内容

教科に関する調査は、国語・算数（数学）・理科の3科目からなり、国語と算数（数学）は、知識に関する問題Aと知識の活用力を問う問題Bの2種類です。理科は、平成24年度から3年に1回実施されています。

教科に関する調査

小学校		中学校	
教科	問題数	教科	問題数
国語A	14	国語A	33
国語B	9	国語B	9
算数A	16	数学A	36
算数B	13	数学B	15
理 科	24	理 科	25

生活習慣や学校環境に関する調査

児童生徒に関する調査	学校に対する調査
学習の意欲、方法、環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

3 久留米市の児童生徒の学力の実態

(1) 教科別の推移

教科別の正答率（問題数に対する正答数の割合）に係る久留米市平均と全国平均の推移は、図1（小学校）と図2（中学校）のとおりです。

小学校

国語、算数とも過去5年は全国平均を超えることができていません。国語Bは全国平均との差が縮小していますが、算数Aは全国平均との差が拡大しています。理科も全国平均を下回り、前回（平成24年）より差が拡大しています。

特に課題が見られる問題例（算数）

問題	6.3 + 0.22 の答えを 6.52 と求めました。この答えが正しいかどうかを次のように確かめます。下のア、イ、ウに入る数を書きましょう。 「アーイ を計算して、ウになるかどうかを確かめます」
正答	(ア) 6.52 (イ) 0.22 (ウ) 6.3
対応	計算結果が大きく誤っていても気付かない実態があるため、振り返って判断できるようにする学習を重視します。

中学校

国語、数学とも過去5年の大部分で全国平均を超えることができていません。全国平均との差は、国語が横ばいで、数学は差が拡大しています。理科は全国平均を下回り、前回よりも差が縮小しています。

特に課題が見られる問題の例（国語）

問題	次の文の下線部を、聞いて分かりやすい言葉に直したいと思います。次の（ ）に当てはまる言葉を10字以内で書きなさい。 「この企画の <u>成否</u> は、彼のさじ加減一つで決まる」 「この企画が（ ）は、彼のさじ加減一つで決まる」
正答	成功するかしないか（失敗するかしないかでも可）
対応	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択する問題に課題があるため、語句の意味や使い方について考える学習を重視します。

以上を踏まえ、小学校中学年以降の対策や学習内容が高度化する中学校入学以降の対策が重要であると言えます。

(2) 自尊感情と学力の相関

平成27年度の調査において、児童生徒の自尊感情を問う質問「自分には、よいところがあると思いますか」の回答状況と各科目の正答率との相関を調べた結果は、図3（小学校）と図4（中学校）のとおりです。

全教科、小中学校を通じて「自分には、よいところがある」と思う児童生徒ほど、学力が高い傾向が見られます。学校だけでなく、家庭も含めて子どもと向き合い、ほめたり励ましたりすることが重要と言えます。

(3) 学習習慣と学力の相関

平成27年度の調査において、児童生徒の学習習慣を問う質問「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の回答状況と各科目の正答率との相関を調べた結果は、図5（小学校）と図6（中学校）のとおりです。

全教科、小中学校を通じて、学校以外の勉強時間が多いほど学力が高い関係にあります。1時間以上勉強すると効果的ですが、30分以上机に付く時間を持つだけでも一定の効果があるため、まずは習慣付けることが重要と言えます。

(4) 学習塾に通う児童生徒とそうでない児童生徒の学力の相関

平成27年度の調査において、学習塾等の利用を問う質問「学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか」の回答状況と各科目の正答率との相関を調べた結果は、図7（小学校）と図8（中学校）のとおりです。

学習塾に通っていない児童生徒は、小学校で約6割、中学校で約4割です。通わないからといって、必ずしも学力が低いわけではありませんが、学習内容が高度化する中学校では、通う生徒とそうでない生徒の差が生じやすくなっています。

これらの状況を受けて、平成27年度より中学生を対象とした無料塾を開設するなど、学習習慣の形成と学習支援に取り組んでいます。

(5) 将来の夢や目標の有無と学力の相関

平成27年度の調査において、将来の夢や目標を問う質問「将来の夢や目標を持っていますか」の回答状況と各科目の正答率との相関を調べた結果は、図9（小学校）と図10（中学校）のとおりです。

将来の夢や目標の有無と学力の相関では、「夢や目標を持っていない児童生徒」の学力は低い傾向にあります。したがって、将来のキャリアや職業生活に関する情報を児童生徒に伝えていくことが重要と言えます。

(6) 正規教員の割合と学力の相関

久留米市の教員定数に占める正規教員の割合と、平成27年度の調査における全教科の正答率との相関を調べた結果は、図11のとおりです。正規教員の割合の低下に連れて学力も下降するなど、一定の相関はあると考えられます。

なお、教員の大量退職に伴い配置される新規採用教員に対しては、初任者研修をより充実させるなど、世代交代による学力への影響回避に努めています。

(7) 正答数別の児童生徒の分布状況

正答した問題数別の児童生徒の分布状況は、図12（小学校）と図13（中学校）のとおりです。

久留米市の児童生徒は学力低位層に多く分布し、その割合は全国や福岡県を上回っています。一方で、学力高位層の分布では、全国や福岡県を下回っており、このことが学力の低さの一因となっています。さらに、正答率を引き下げる「無答者」についても、久留米市の割合が全国や福岡県平均を上回っています。

これらの状況を受けて、過去に出題された問題を踏まえた練習や時間配分に関する指導を行い、児童生徒が戸惑わないようにする取り組みを行っています。

4 具体的な取り組み

(1) 教育委員会

教育委員会において、学力の保障と向上に向けて取り組んでいる事業は、主に次のとおりです。

(資料1) 小学校くるめ学力アップ推進事業

(資料2) 中学校くるめ学力アップ推進事業

(2) 学校

教育の最前線で子どもたちと直接向き合う学校では、各校で創意工夫をこらした取り組みが行われています。全国学力・学習状況調査の結果の伸び率が顕著な学校の取り組みは、次のとおりです。

(資料3) 小学校 水曜日の朝に国語タイムを実施

(資料4) 小学校 月2回金曜日の放課後に補充学習

(資料5) 小学校 調査の問題を実際に解いて問題の特徴を把握

(資料6) 小学校 学年×10分間を目安とする宿題の工夫

(資料7) 中学校 放課後チャレンジ学習塾

(資料8) 中学校 学年統一宿題と月曜テストの実施

平成28年度 第1回 久留米市総合教育会議

資料集

平成28年7月25日

平成27年度 全国学力・学習状況調査（小学校）

参考1

都道府県別の平均正答率 全教科順位

単位%

順位	都道府県	全教科	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
1	秋田県	70.4	76.0	76.4	81.2	51.5	66.7
2	石川県	69.1	74.4	73.5	80.3	50.4	66.7
3	福井県	68.4	73.8	72.1	79.2	50.0	66.8
4	青森県	67.4	75.1	69.8	78.5	47.4	66.3
5	富山県	67.3	72.9	70.1	78.5	47.5	67.5
6	広島県	66.2	73.8	69.7	77.7	46.7	63.2
7	京都府	65.4	72.1	67.5	77.6	47.5	62.2
8	東京都	65.3	72.3	66.5	77.4	47.8	62.4
9	新潟県	65.2	73.2	67.2	77.4	44.9	63.1
9	山口県	65.2	72.1	67.5	77.1	46.4	62.7
11	香川県	65.1	72.3	69.5	74.3	47.0	62.3
12	愛媛県	64.9	69.9	67.7	75.1	47.9	63.9
13	茨城県	64.6	71.2	67.2	75.4	45.1	64.2
14	高知県	64.5	73.4	67.0	77.0	44.6	60.3
14	大分県	64.5	71.5	66.7	76.7	44.6	62.8
16	静岡県	64.4	71.7	67.8	77.2	45.3	60.2
17	岩手県	64.2	73.1	67.9	75.6	42.8	61.6
18	長野県	63.7	70.4	66.4	75.0	45.4	61.3
19	鳥取県	63.6	71.5	66.8	74.6	45.2	60.1
19	兵庫県	63.6	70.1	65.5	75.2	46.9	60.3
19	沖縄県	63.6	69.3	67.3	77.7	44.7	59.0
19	熊本県	63.6	70.2	64.0	75.5	45.6	62.6
23	千葉県	63.5	71.5	64.5	74.7	45.1	61.9
全国(公立)		63.3	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
24	鹿児島県	63.2	68.4	65.8	75.9	42.5	63.4
25	奈良県	63.1	70.5	64.7	75.5	44.8	60.0
26	群馬県	63.0	71.1	64.2	74.9	43.2	61.7
27	徳島県	62.9	68.5	66.1	74.6	45.5	59.7
27	佐賀県	62.9	70.4	64.6	74.6	43.7	61.0
29	福島県	62.7	71.0	65.3	74.3	42.4	60.7
29	岡山県	62.7	69.2	64.5	75.2	44.8	59.9
29	和歌山県	62.7	69.5	64.5	75.6	44.9	59.0
29	宮崎県	62.7	72.1	64.0	73.7	43.7	60.0
29	福岡県	62.7	69.8	65.1	74.7	44.2	59.5
34	岐阜県	62.4	67.8	65.9	73.8	43.6	60.8
35	山形県	62.3	70.6	63.6	73.4	42.1	62.0
35	三重県	62.3	68.0	65.3	74.8	44.1	59.2
35	神奈川県	62.3	67.9	64.3	74.0	44.8	60.4
38	宮城県	62.0	69.6	63.9	74.1	42.7	59.6
39	山梨県	61.9	68.5	64.8	74.1	41.9	60.4
39	長崎県	61.9	69.0	64.1	74.0	43.5	58.8
41	栃木県	61.8	68.9	63.1	73.9	43.0	60.0
42	埼玉県	61.7	68.7	64.2	73.1	43.1	59.2
43	愛知県	61.6	66.6	63.0	73.4	45.7	59.3
44	島根県	61.5	69.3	63.8	72.4	42.2	59.8
45	大阪府	61.3	67.6	62.7	74.8	44.1	57.3
46	滋賀県	61.2	68.6	63.7	72.7	43.0	58.0
47	北海道	61.0	68.1	63.0	72.3	42.5	59.3

平成27年度 全国学力・学習状況調査（中学校）

参考2

都道府県別の平均正答率 全教科順位

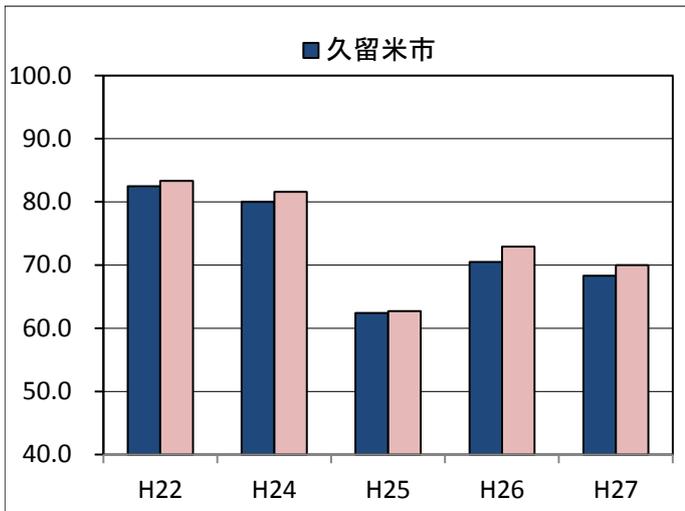
単位%

順位	都道府県	全教科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
1	福井県	65.9	79.5	69.8	71.1	47.7	61.3
2	秋田県	65.3	80.8	70.7	68.4	46.9	59.6
3	石川県	63.6	78.1	69.1	67.8	44.9	58.2
4	富山県	63.4	78.1	68.2	67.1	44.5	59.2
5	岐阜県	62.3	76.4	68.3	65.7	44.2	56.8
6	静岡県	62.0	76.3	67.7	66.0	44.6	55.3
6	愛知県	62.0	76.4	66.3	67.2	43.8	56.1
8	群馬県	61.9	77.0	67.4	65.3	42.6	57.0
9	愛媛県	61.5	77.0	66.5	65.4	43.2	55.2
10	東京都	61.4	77.2	67.0	66.3	44.0	52.5
11	兵庫県	61.2	77.1	65.9	67.1	42.8	53.3
12	神奈川県	60.7	76.0	66.5	65.0	43.3	52.8
12	京都府	60.7	76.7	66.5	65.3	42.5	52.6
12	山口県	60.7	76.4	66.3	65.3	42.4	53.0
12	茨城県	60.7	76.4	67.5	63.1	41.4	54.9
16	広島県	60.6	76.5	67.0	64.6	42.7	52.2
17	山形県	60.3	76.8	66.3	63.4	40.3	54.9
17	鳥取県	60.3	76.9	66.2	64.3	41.2	53.0
17	熊本県	60.3	75.2	66.2	64.0	41.6	54.4
20	山梨県	60.2	76.1	66.2	63.6	41.2	54.1
21	新潟県	60.1	76.0	66.0	64.4	42.2	52.1
	全国（公立）	60.1	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
22	宮城県	60.0	76.1	66.2	63.1	40.7	53.7
22	奈良県	60.0	76.2	65.1	65.3	41.7	51.5
22	香川県	60.0	76.0	64.9	64.4	41.3	53.2
25	青森県	59.8	76.0	64.8	64.4	39.8	53.8
26	千葉県	59.7	76.0	65.7	63.4	41.6	52.0
27	長野県	59.6	76.2	65.0	63.5	40.6	52.8
27	栃木県	59.6	75.7	65.2	63.5	40.4	53.1
29	徳島県	59.5	75.7	64.3	65.4	39.9	52.4
29	北海道	59.5	75.8	65.7	63.0	39.7	53.3
29	長崎県	59.5	75.5	66.0	64.1	40.3	51.6
32	大分県	59.4	75.9	65.6	63.0	39.4	52.9
33	島根県	59.3	75.7	65.6	62.7	39.6	53.1
34	三重県	59.2	75.0	64.3	64.3	40.6	51.9
35	大阪府	59.1	74.4	64.8	64.3	41.4	50.8
36	埼玉県	59.0	74.9	64.7	63.2	40.4	51.6
37	宮崎県	58.7	74.0	64.7	63.8	40.0	51.1
38	福岡県	58.5	74.6	64.5	62.2	39.8	51.3
39	福島県	58.3	75.2	64.5	61.2	38.1	52.5
40	滋賀県	58.2	74.1	63.8	63.8	39.2	50.3
40	岡山県	58.2	74.8	63.5	62.9	38.3	51.5
42	鹿児島県	58.1	73.3	64.1	61.7	39.4	51.9
43	和歌山県	58.0	73.4	62.9	64.0	39.6	50.1
44	岩手県	57.6	75.5	64.8	60.1	36.7	50.7
45	佐賀県	57.4	73.9	63.3	61.7	38.6	49.6
46	高知県	55.9	73.3	62.9	59.9	36.2	47.3
47	沖縄県	53.4	70.0	61.3	55.8	34.0	45.9

図1 教科別の推移（小学校）

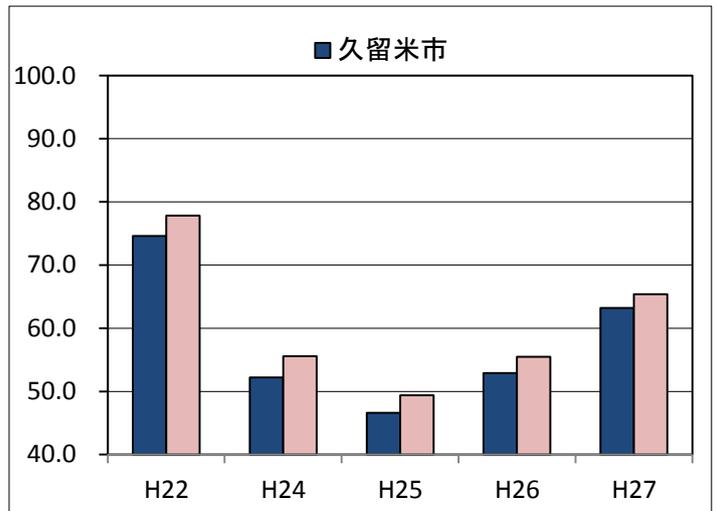
小学校 国語A

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	82.5	80.0	62.4	70.5	68.3
全国	83.3	81.6	62.7	72.9	70.0
差	▲ 0.8	▲ 1.6	▲ 0.3	▲ 2.4	▲ 1.7



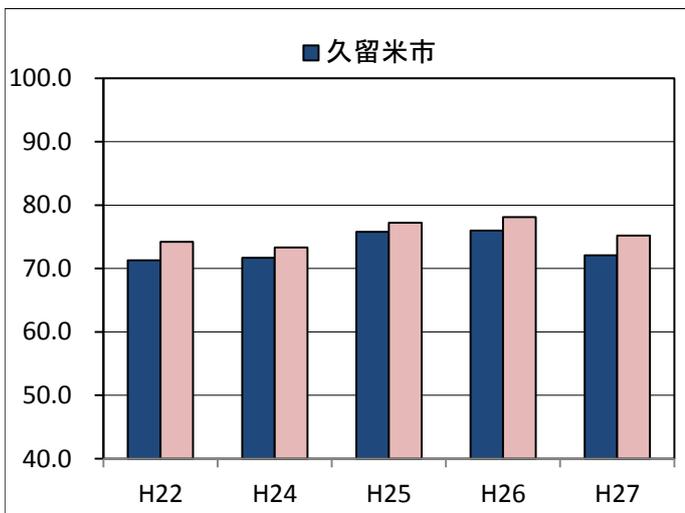
小学校 国語B

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	74.6	52.2	46.6	52.9	63.2
全国	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4
差	▲ 3.2	▲ 3.4	▲ 2.8	▲ 2.6	▲ 2.2



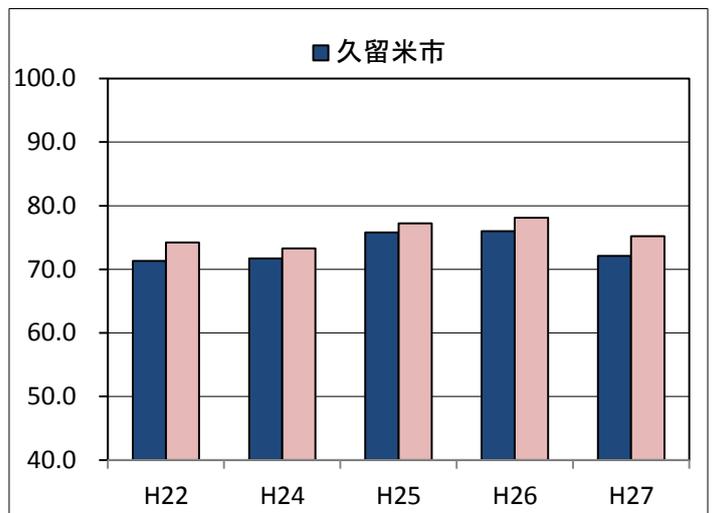
小学校 算数A

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	71.3	71.7	75.8	76.0	72.1
全国	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2
差	▲ 2.9	▲ 1.6	▲ 1.4	▲ 2.1	▲ 3.1



小学校 算数B

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	48.2	56.2	58.3	55.2	42.7
全国	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0
差	▲ 1.1	▲ 2.7	▲ 0.1	▲ 3.0	▲ 2.3



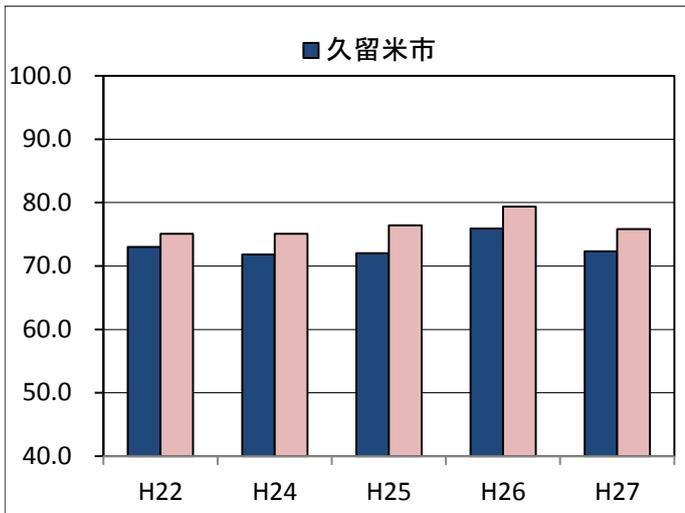
小学校 理科

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	-	58.0	-	-	57.0
全国	-	60.9	-	-	60.8
差		▲ 2.9			▲ 3.8

図2 教科別の推移（中学校）

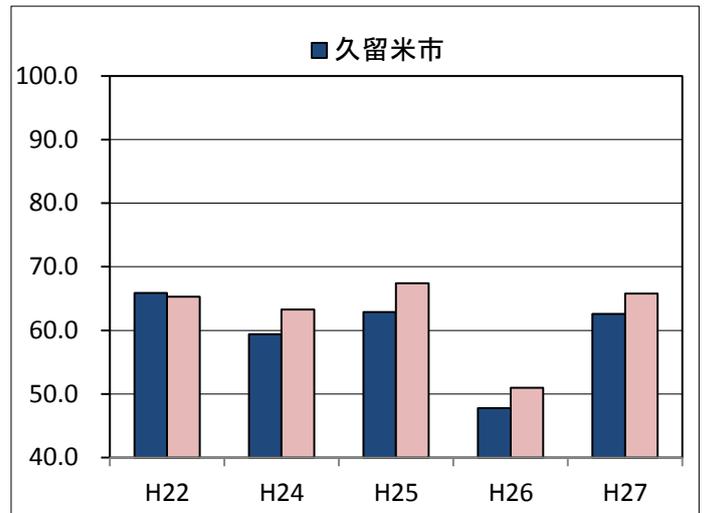
中学校 国語A

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	73.0	71.8	72.0	75.9	72.3
全国	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8
差	▲ 2.1	▲ 3.3	▲ 4.4	▲ 3.5	▲ 3.5



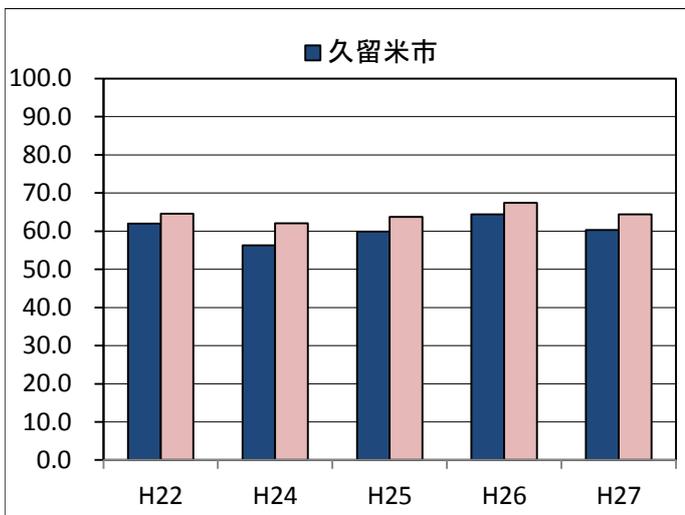
中学校 国語B

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	65.9	59.4	62.9	47.8	62.6
全国	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8
差	0.6	▲ 3.9	▲ 4.5	▲ 3.2	▲ 3.2



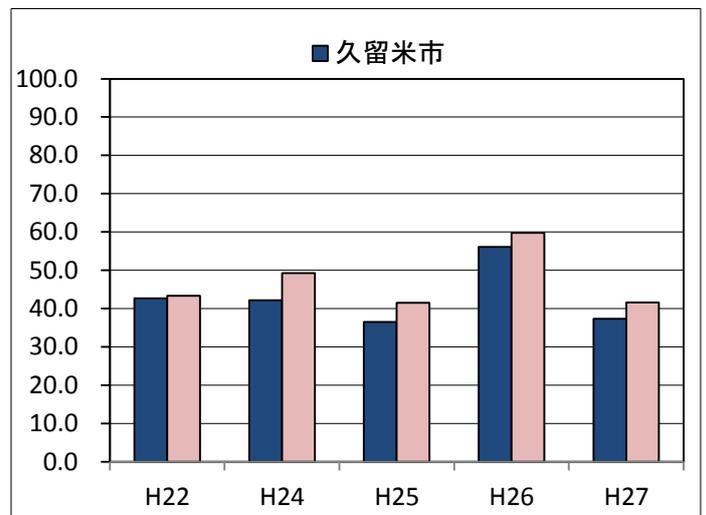
中学校 数学A

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	62.0	56.3	59.9	64.4	60.3
全国	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4
差	▲ 2.6	▲ 5.8	▲ 3.8	▲ 3.0	▲ 4.1



中学校 数学B

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	42.7	42.2	36.5	56.1	37.3
全国	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6
差	▲ 0.6	▲ 7.1	▲ 5.0	▲ 3.7	▲ 4.3



中学校 理科

	H22	H24	H25	H26	H27
久留米市	-	45.8	-	-	49.3
全国	-	51.0	-	-	53.0
差		▲ 5.2			▲ 3.7

図3 自尊心と学力の相関（小学校）

質問 自分には、よいところがあると思いますか。

(児童数)人 (左記以外)%

選択肢	児童数	割合	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
当てはまる ①	771	30.6	70.1	65.5	75.0	45.1	59.1
どちらかといえば、当てはまる ②	1,045	41.5	69.6	65.5	72.4	43.6	58.0
どちらかといえば、当てはまらない ③	509	20.2	67.1	61.3	70.8	41.0	55.1
当てはまらない ④	191	7.6	58.3	48.5	62.4	32.7	49.0
その他・無回答	2	0.1	-	-	-	-	-
計	2,518	100.0					

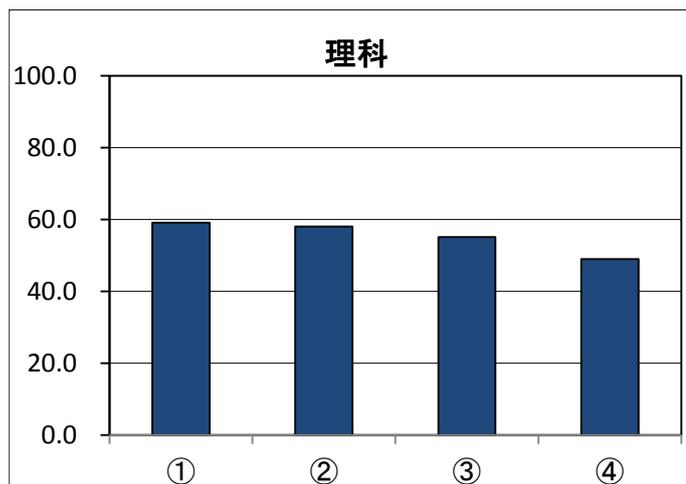
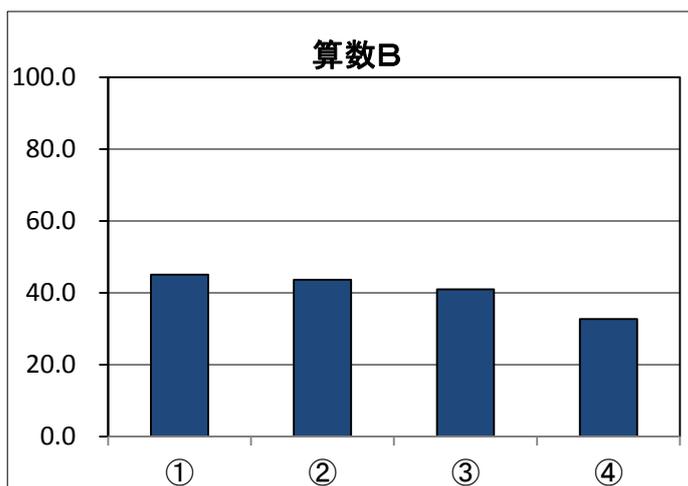
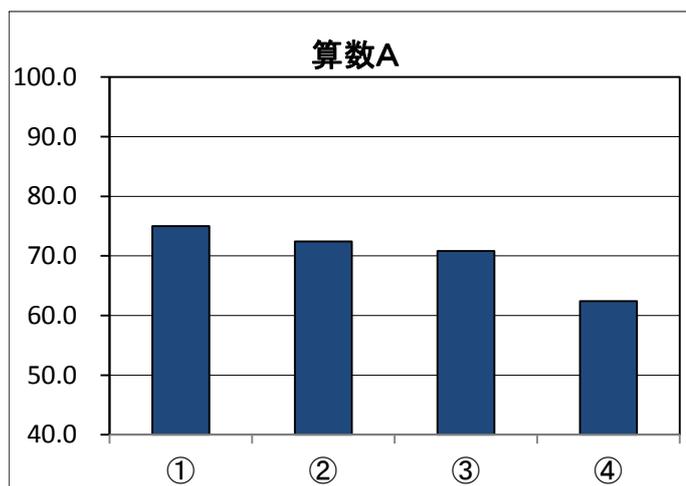
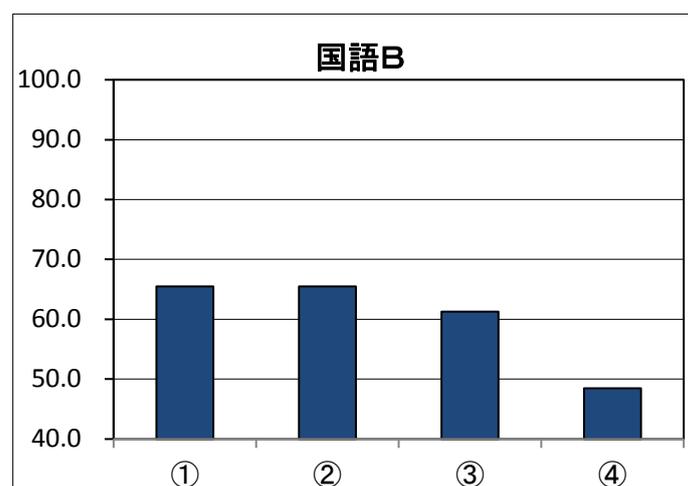
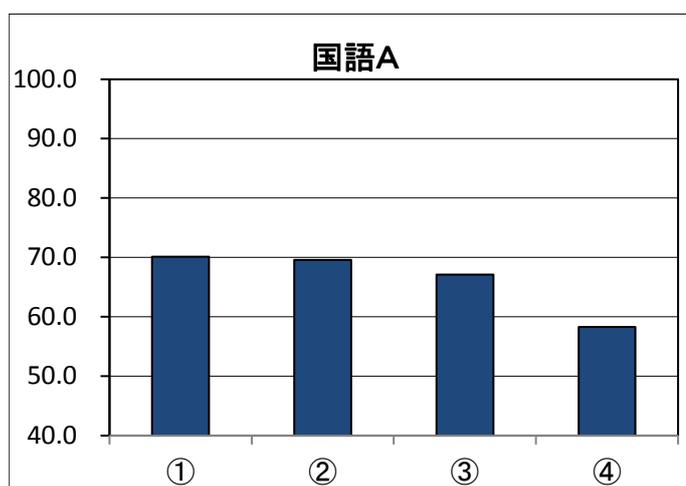


図4 自尊感情と学力の相関（中学校）

質問 自分には、よいところがあると思いますか。

(生徒数)人 (左記以外)%

選択肢	児童数	割合	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
当てはまる ①	449	17.6	73.1	63.3	63.3	39.4	51.4
どちらかといえば、当てはまる ②	1,094	42.9	74.3	65.4	63.4	40.6	62.3
どちらかといえば、当てはまらない ③	738	28.9	70.2	59.7	56.7	33.7	45.9
当てはまらない ④	267	10.5	69.1	58.6	53.8	30.6	43.6
その他・無回答	5	0.2	-	-	-	-	-
計	2,553	100.0					

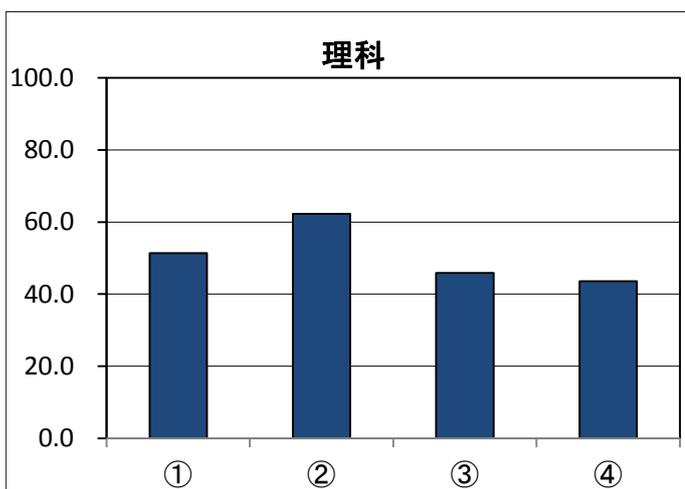
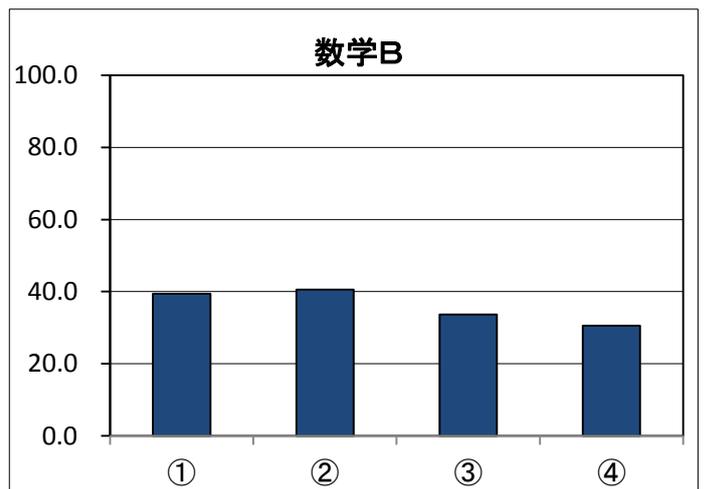
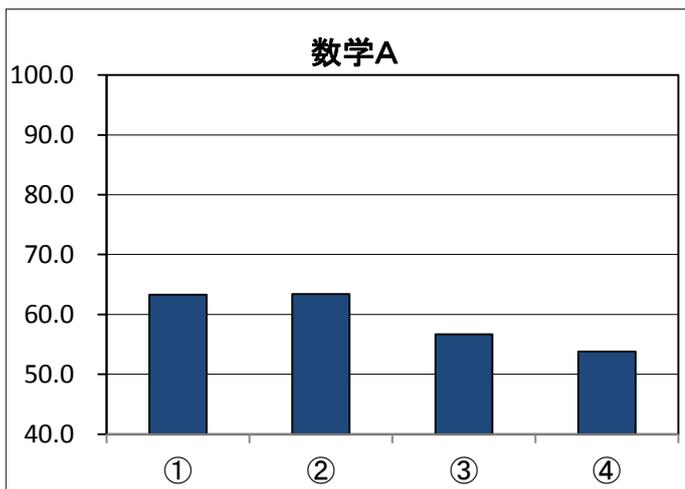
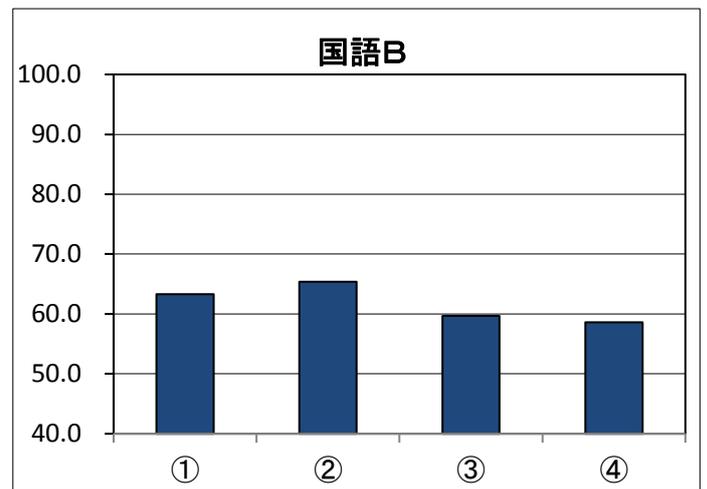
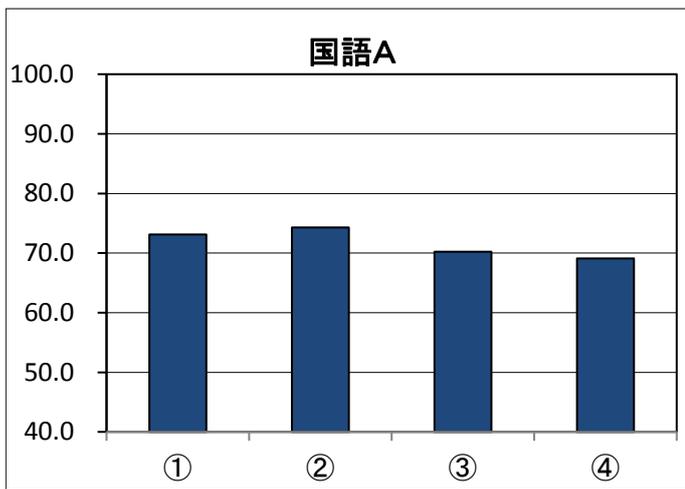


図5 学習習慣と学力の相関（小学校）

質問

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

（児童数）人 （左記以外）%

選択肢	児童数	割合	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
3時間以上 ①	237	9.4	76.4	71.4	80.4	52.8	63.2
2時間以上、3時間より少ない ②	344	13.7	72.0	65.9	74.5	45.5	58.9
1時間以上、2時間より少ない ③	820	32.6	70.0	65.9	74.3	44.6	59.4
30分以上、1時間より少ない ④	766	30.4	67.4	63.5	70.8	40.9	55.9
30分より少ない ⑤	255	10.1	59.1	51.4	62.9	33.2	49.5
まったくしない ⑥	95	3.8	54.0	42.2	59.1	30.4	44.0
その他・無回答	1	0.0	-	-	-	-	-
計	2,518	100.0					

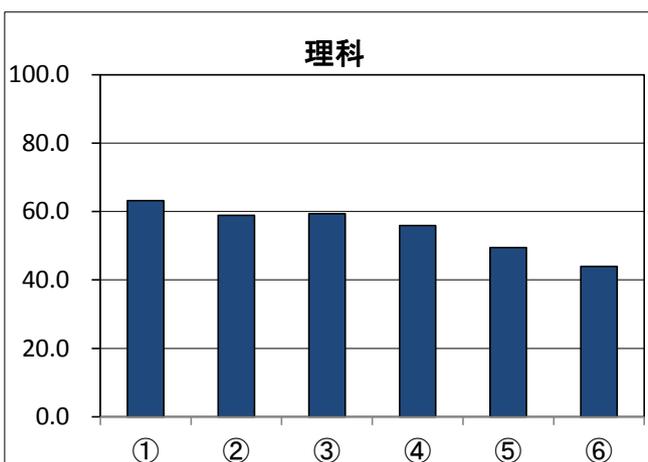
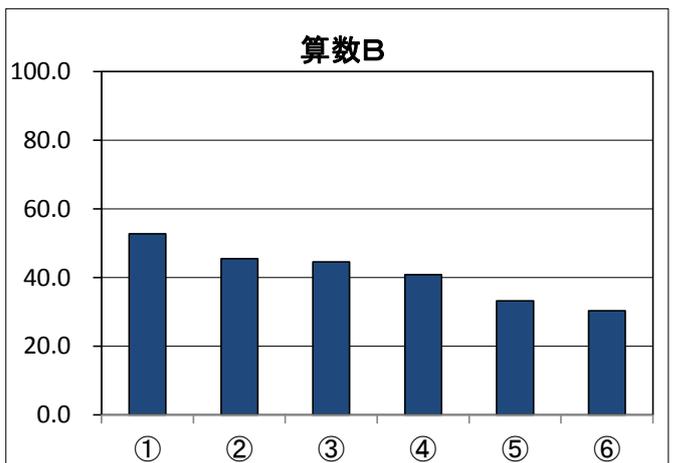
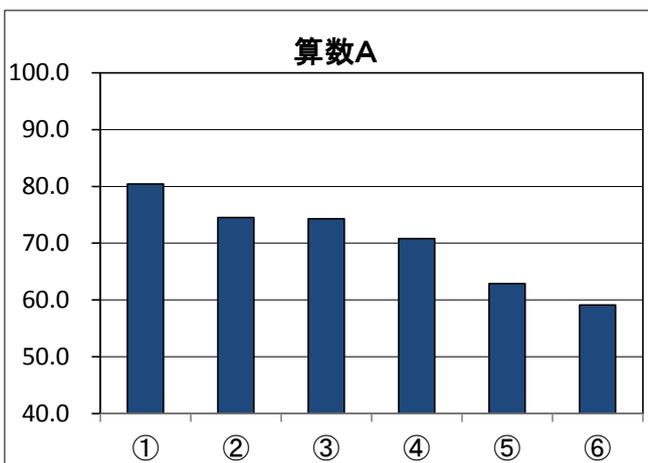
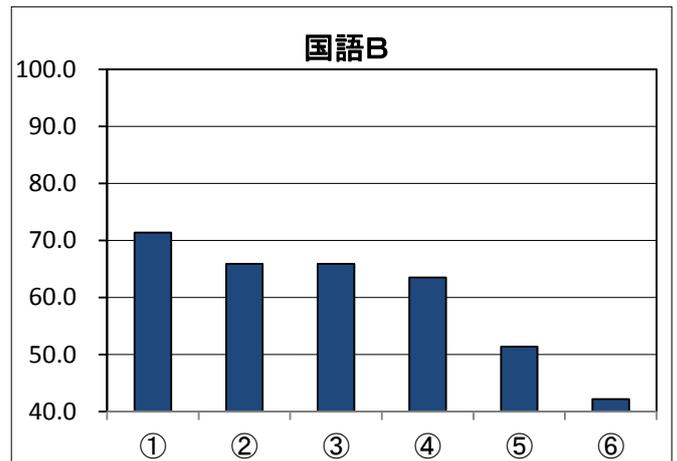
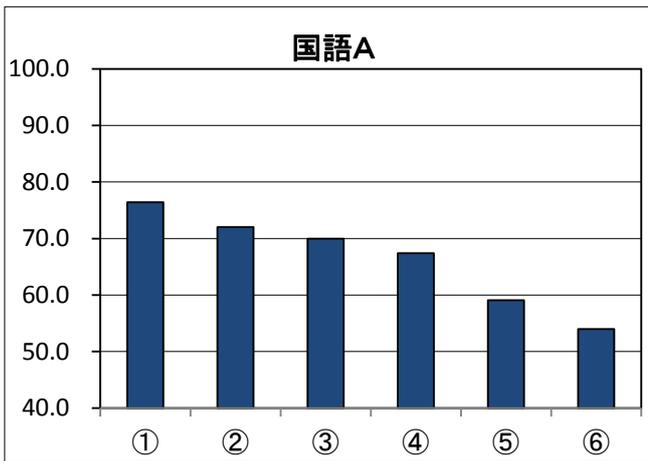


図6 学習習慣と学力の相関（中学校）

質問 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

選択肢	児童数	割合	(生徒数)人 (左記以外)%				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3時間以上 ①	321	12.6	75.3	65.7	67.3	43.3	54.3
2時間以上、3時間より少ない ②	624	24.4	76.7	66.6	66.5	42.3	54.0
1時間以上、2時間より少ない ③	682	26.7	72.8	64.2	61.3	37.9	49.6
30分以上、1時間より少ない ④	456	17.9	70.6	60.9	56.7	34.1	47.1
30分より少ない ⑤	296	11.6	68.2	58.0	52.2	30.7	43.9
まったくしない ⑥	168	6.6	60.7	48.7	45.0	26.3	37.2
その他・無回答	6	0.3	-	-	-	-	-
計	2,553	100.0					

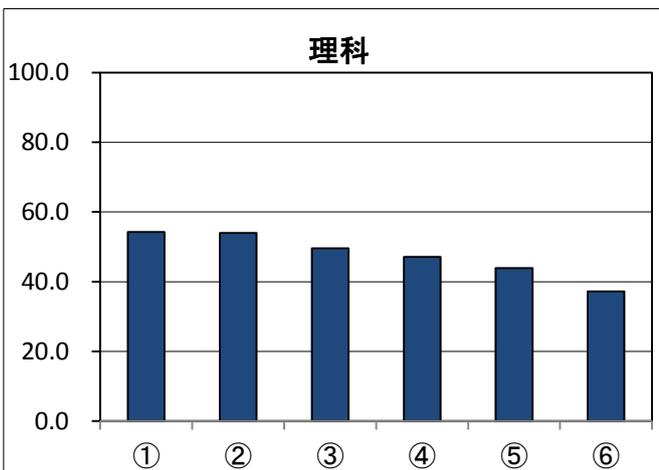
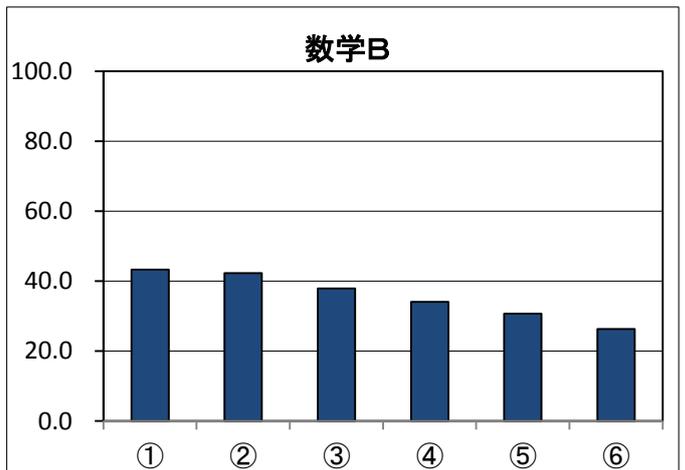
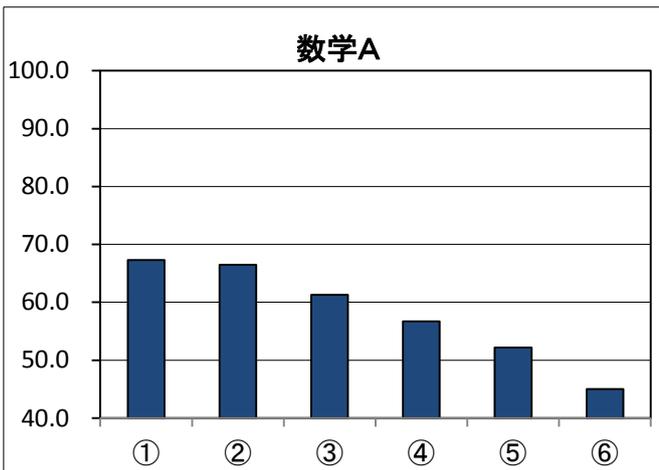
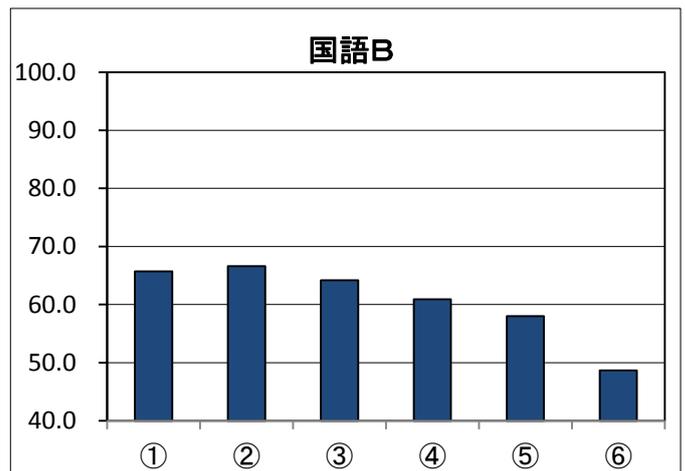
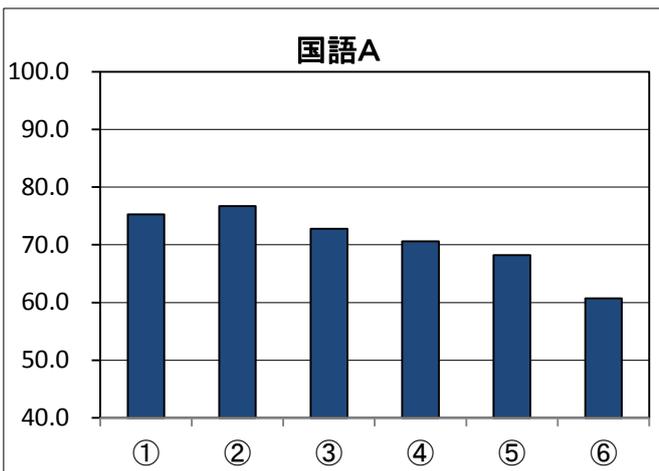


図7 学習塾の利用と学力の相関（小学校）

質問 学習塾(家庭教師を含む)で勉強していますか。

(児童数)人 (左記以外)%

選択肢	児童数	割合	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学習塾に通っていない ①	1,465	58.2	67.8	63.7	71.9	42.1	57.2
学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している ②	441	17.5	75.2	68.9	78.8	51.4	61.8
学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している ③	186	7.4	59.5	52.0	60.9	29.8	45.9
②と③の両方を勉強している ④	199	7.9	72.0	67.6	75.5	45.5	59.8
②と③の内容のどちらともいえない ⑤	218	8.7	63.0	55.6	66.7	37.9	54.2
その他・無回答	9	0.4	-	-	-	-	-
計	2,518	100.0					

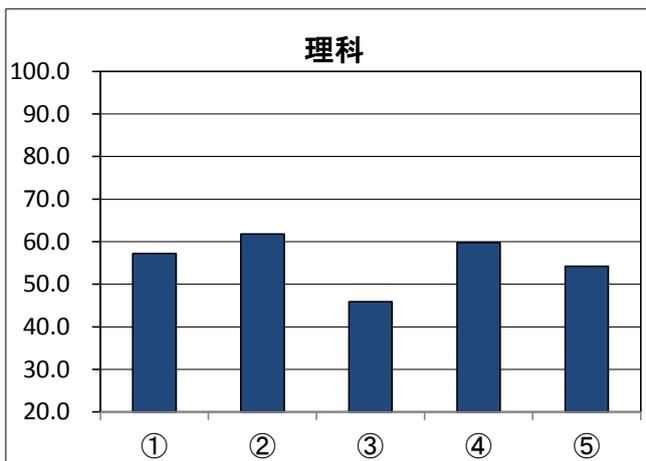
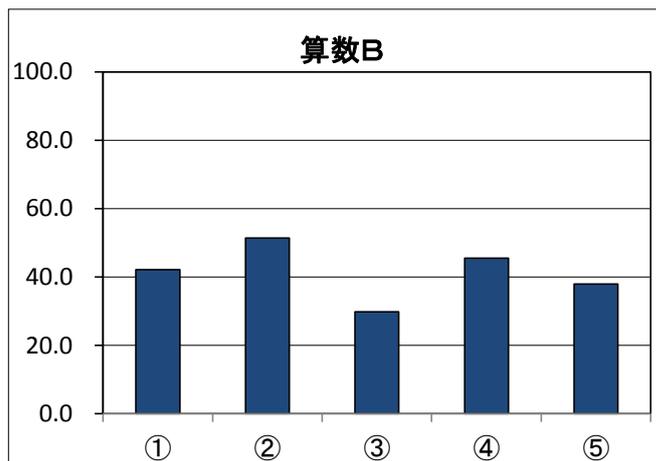
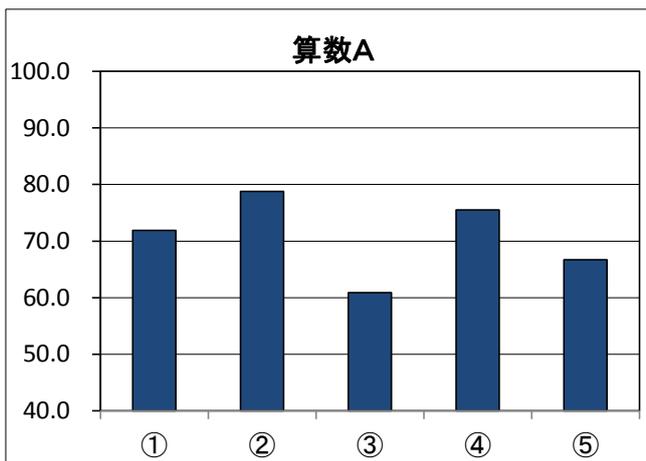
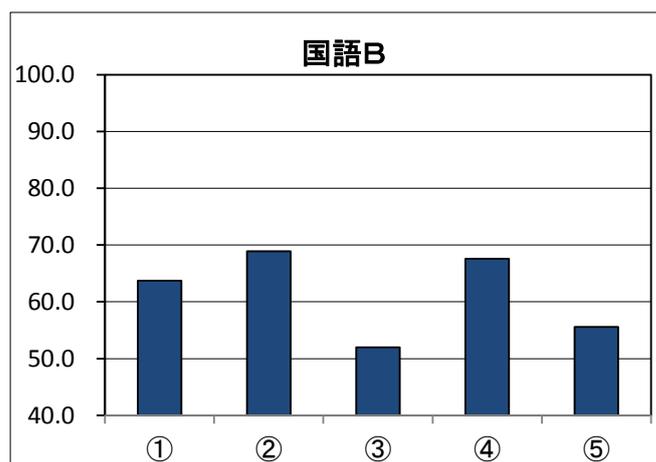
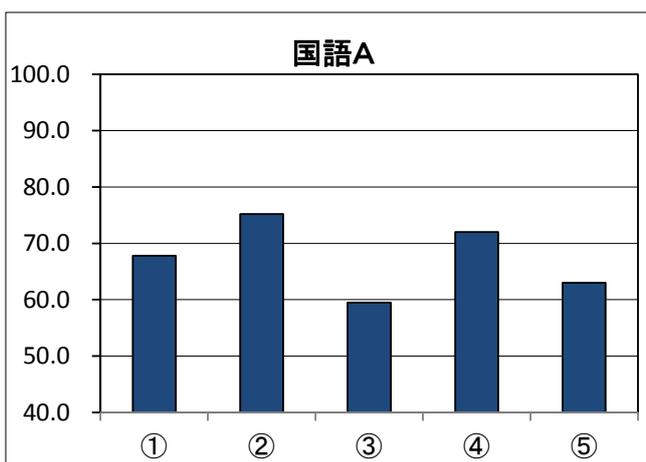


図8 学習塾の利用と学力の相関（中学校）

質問 学習塾(家庭教師を含む)で勉強していますか。

選択肢	児童数	割合	(生徒数)人 (左記以外)%				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学習塾に通っていない ①	1,028	40.3	70.5	60.6	55.4	34.0	47.2
学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している ②	455	17.8	77.2	66.7	69.5	45.9	56.1
学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している ③	210	8.2	61.3	51.9	50.2	26.7	38.6
②と③の両方を勉強している ④	693	27.1	76.4	67.6	66.7	41.9	53.6
②と③の内容のどちらともいえない ⑤	156	6.1	67.8	58.0	53.4	29.8	40.2
その他・無回答	11	0.5	-	-	-	-	-
計	2,553	100.0					

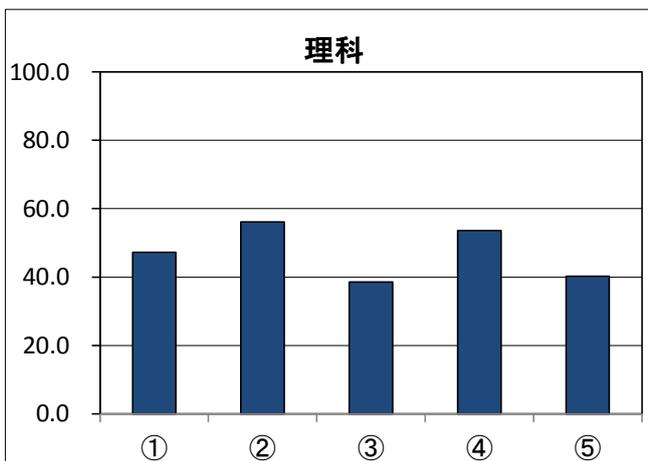
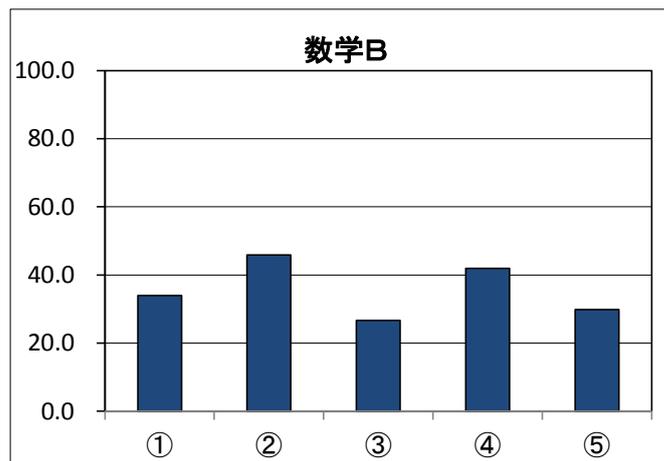
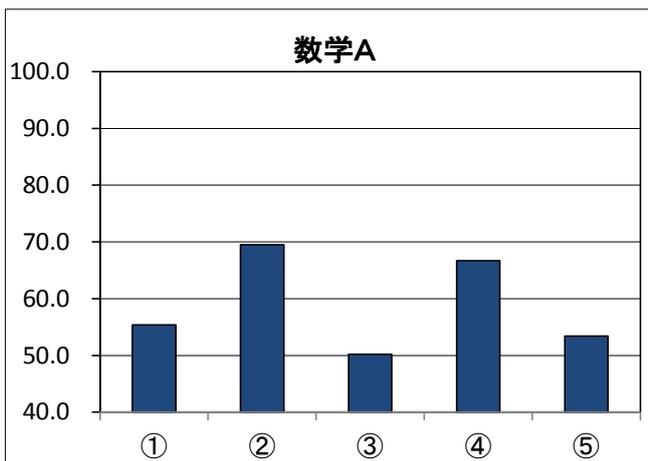
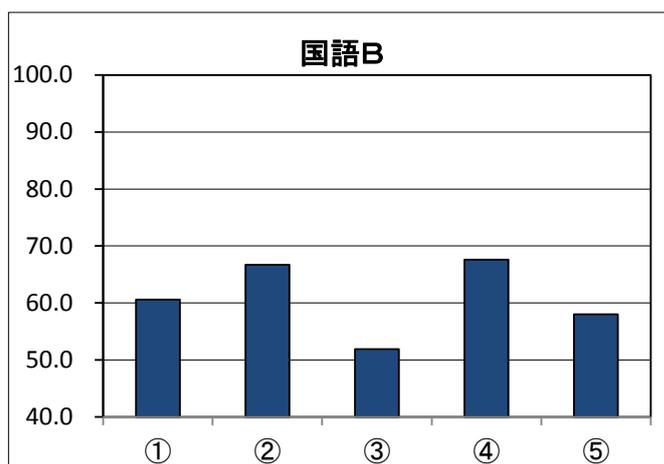
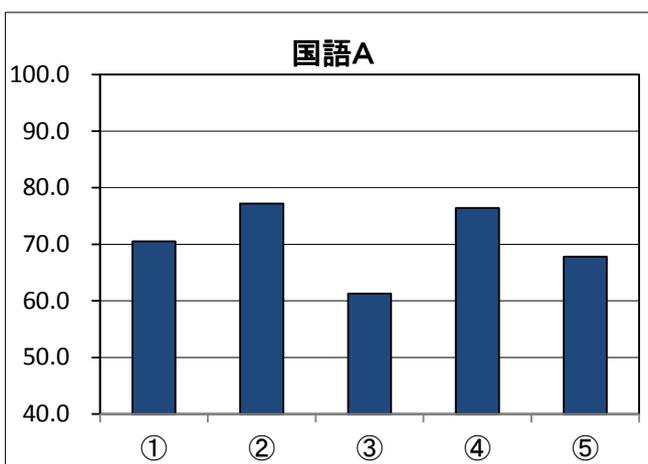


図9 将来の夢や目標の有無と学力の相関（小学校）

質問 将来の夢や目標を持っていますか。

選択肢	児童数	割合	(児童数)人 (左記以外)%				
			国語A	国語B	算数A	算数B	理科
当てはまる ①	1,658	65.8	68.5	63.6	71.7	42.3	56.5
どちらかといえば、当てはまる ②	465	18.5	70.0	64.0	73.4	44.9	58.7
どちらかといえば、当てはまらない ③	238	9.5	67.8	64.2	74.7	44.2	60.6
当てはまらない ④	151	6.0	63.0	56.3	68.7	36.8	52.0
その他・無回答	6	0.2	-	-	-	-	-
計	2,518	100.0					

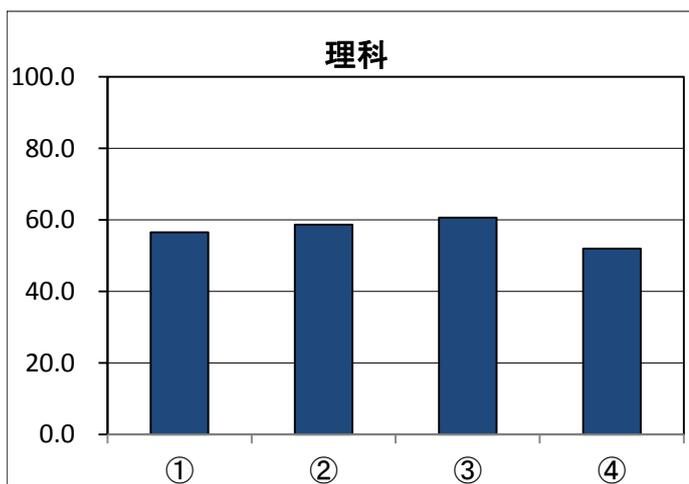
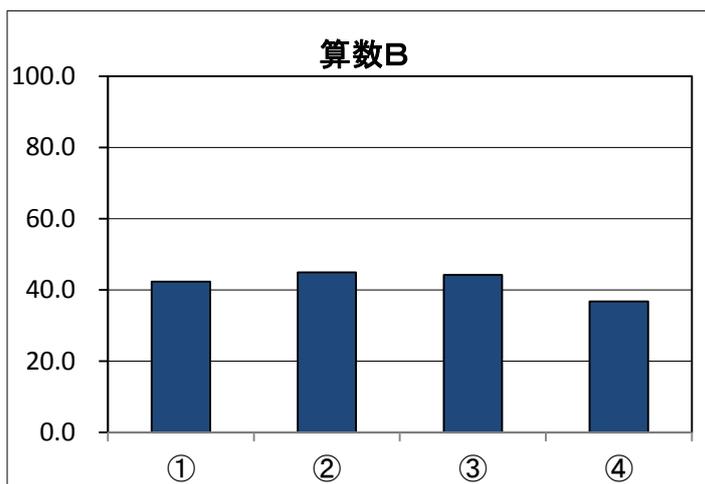
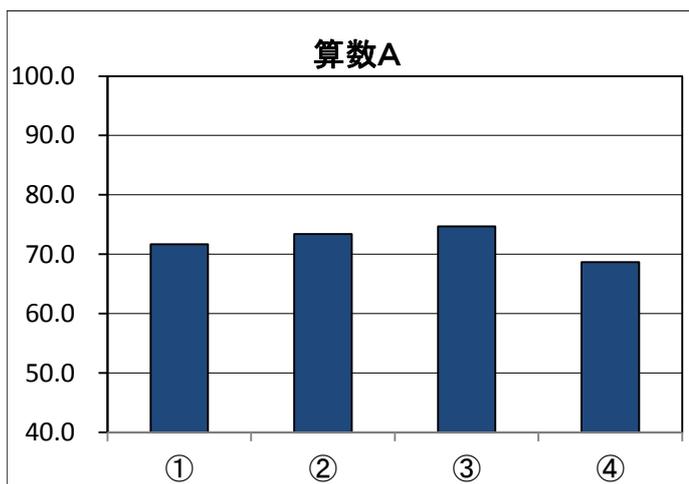
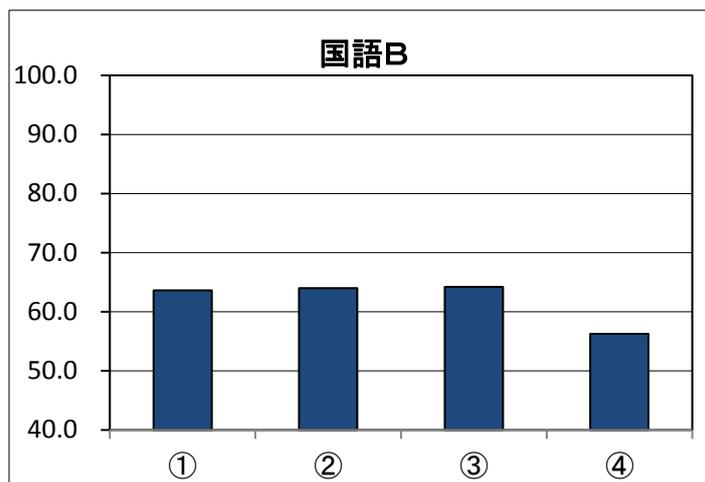
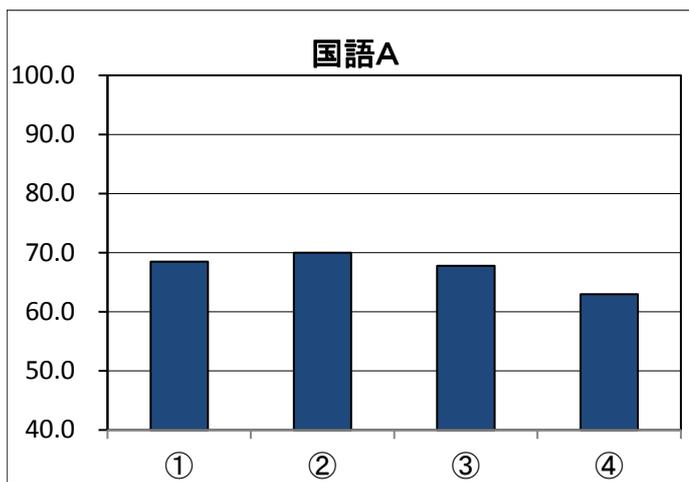


図 10 将来の夢や目標の有無と学力の相関（中学校）

質問 将来の夢や目標を持っていますか。

選択肢	児童数	割合	(生徒数)人 (左記以外)%				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科
当てはまる ①	1,096	42.9	73.2	63.7	61.1	37.9	50.5
どちらかといえば、当てはまる ②	680	26.6	73.2	63.2	61.2	38.8	50.2
どちらかといえば、当てはまらない ③	499	19.5	71.4	62.5	59.9	36.7	48.6
当てはまらない ④	270	10.6	68.5	58.6	56.9	32.8	44.5
その他・無回答	8	0.3	-	-	-	-	-
計	2,553	100.0					

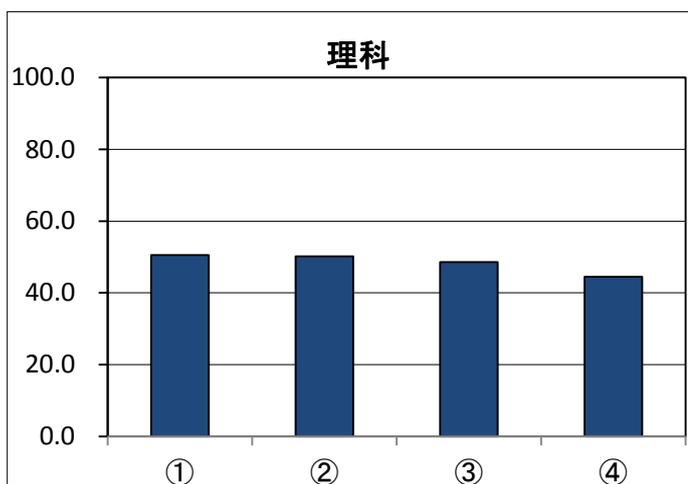
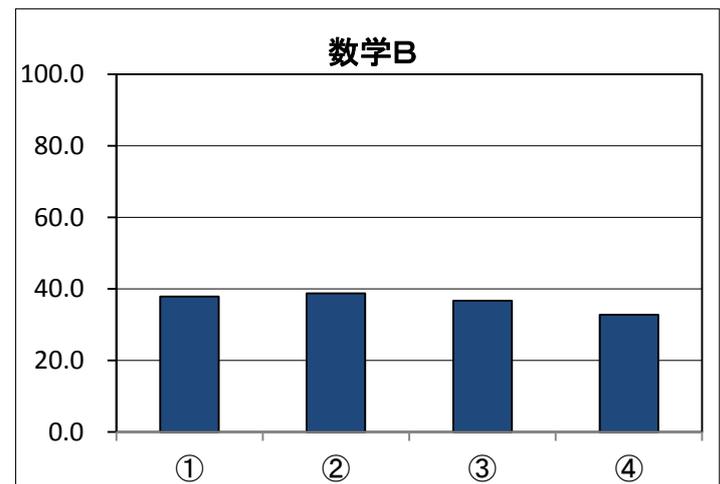
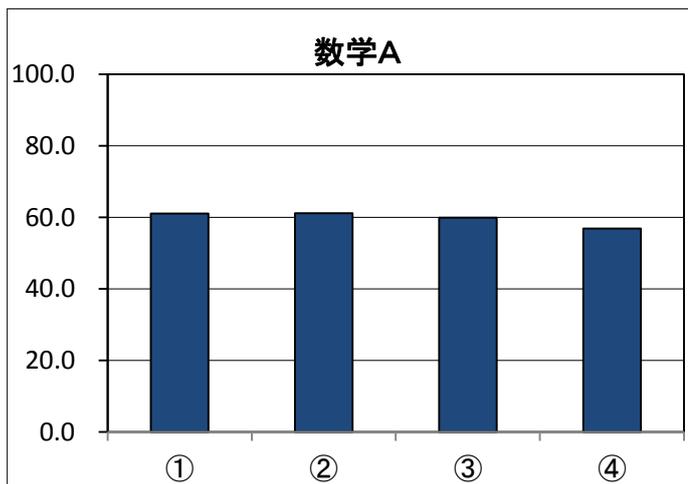
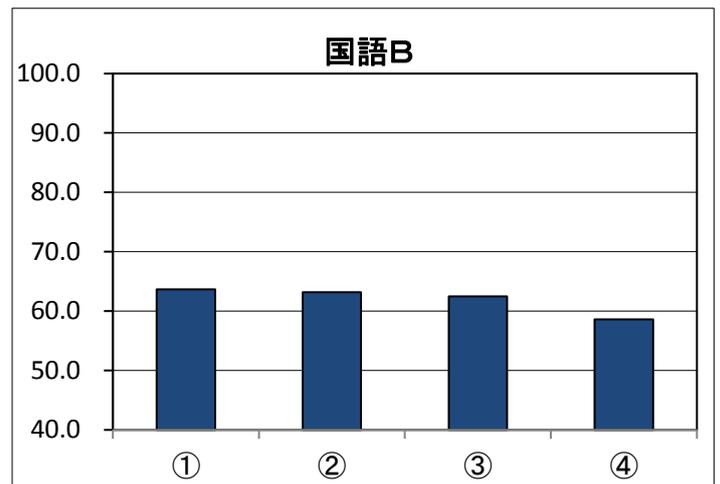
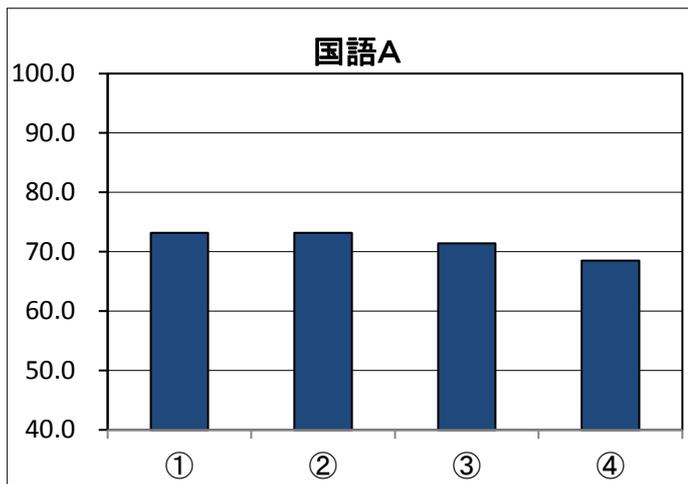


図 1 1 正規教員の割合と学力の相関

小学校 正答率

	H22	H24	H25	H26	H27
国語A	82.5	80.0	62.4	70.5	68.3
国語B	74.6	52.2	46.6	52.9	63.2
算数A	71.3	71.7	75.8	76.0	72.1
算数B	48.2	56.2	58.3	55.2	42.7
平均正答率	69.2	65.0	60.8	63.7	61.6

中学校 正答率

	H22	H24	H25	H26	H27
国語A	73.0	71.8	72.0	75.9	72.3
国語B	65.9	59.4	62.9	47.8	62.6
数学A	62.0	56.3	59.9	64.4	60.3
数学B	42.7	42.2	36.5	56.1	37.3
平均正答率	60.9	57.4	57.8	61.1	58.1

小学校 正規教員の状況

	H22	H24	H25	H26	H27
正規割合	87.6	87.5	86.8	85.4	86.0
人数	784	794	791	775	793

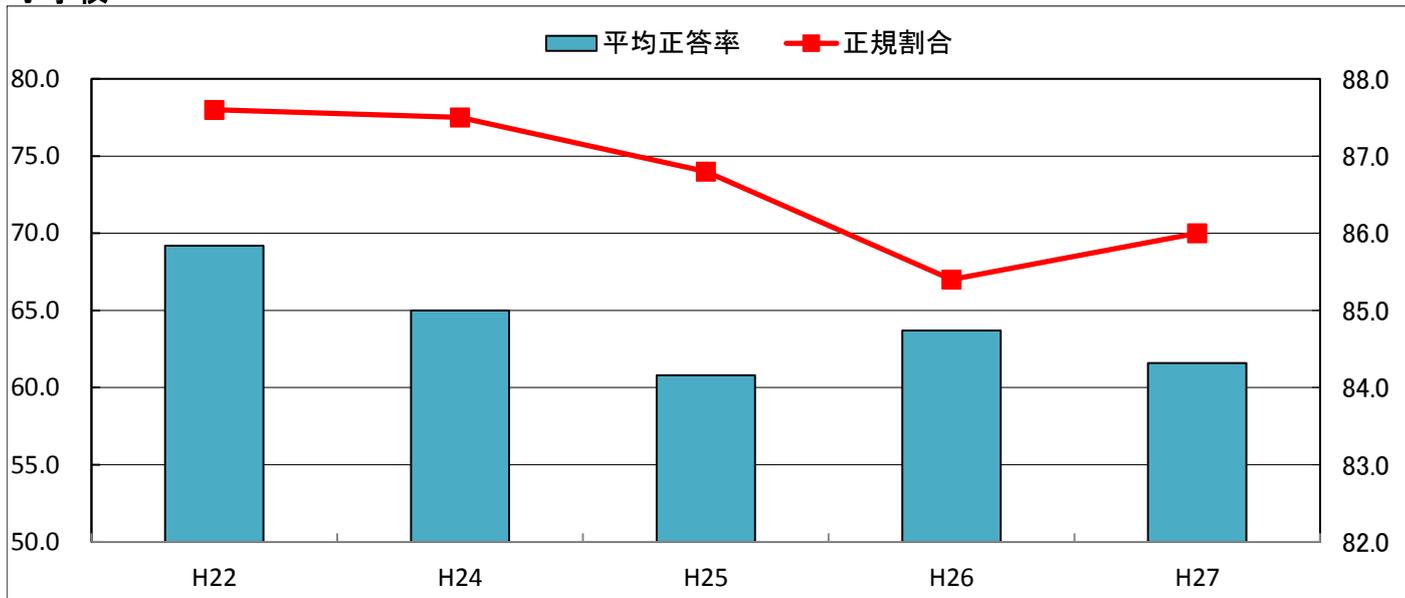
* 学力と合わせるため平成23年度は省略している。

中学校 正規教員の状況

	H22	H24	H25	H26	H27
正規割合	86.0	78.7	77.6	77.5	76.2
人数	418	387	382	385	384

* 学力と合わせるため平成23年度は省略している。

小学校



中学校

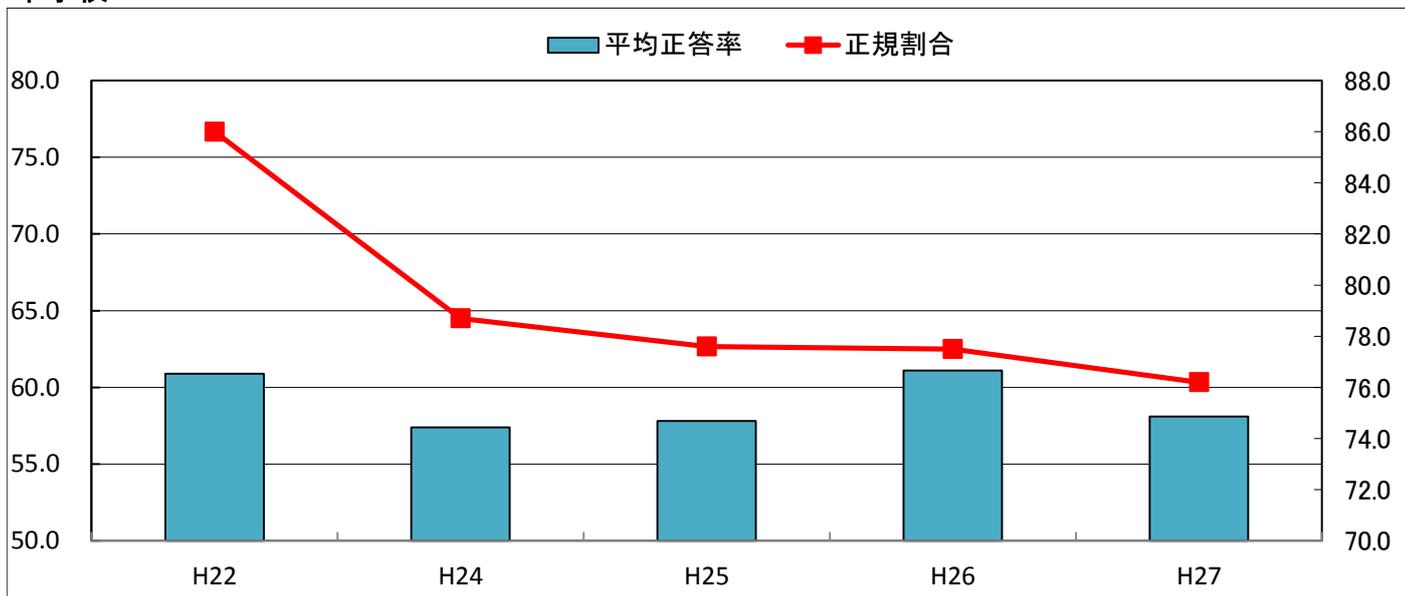
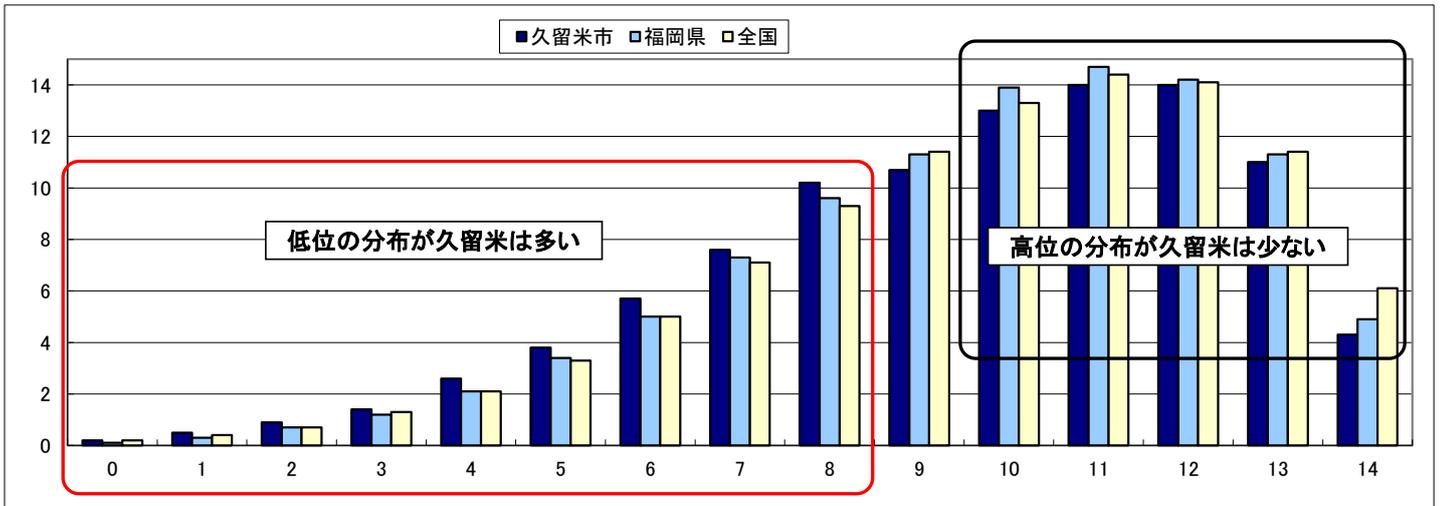


図 1 2 正答数別の分布状況（小学校）

国語 A（全 1 4 問）

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	正答した問題数別の分布割合														
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
久留米市	9.6	68.3	10.0	0.2	0.5	0.9	1.4	2.6	3.8	5.7	7.6	10.2	10.7	13.0	14.0	14.0	11.0	4.3
福岡県	9.8	69.8	10.0	0.1	0.3	0.7	1.2	2.1	3.4	5.0	7.3	9.6	11.3	13.9	14.7	14.2	11.3	4.9
全国	9.8	70.0	10.0	0.2	0.4	0.7	1.3	2.1	3.3	5.0	7.1	9.3	11.4	13.3	14.4	14.1	11.4	6.1



算数 B（全 1 3 問）

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	正答した問題数別の分布割合													
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
久留米市	5.5	42.7	5.0	2.4	5.4	10.1	11.1	10.9	11.5	10.4	10.2	9.9	7.4	5.7	3.2	1.3	0.6
福岡県	5.7	44.2	6.0	1.5	5.0	8.6	10.7	11.3	11.6	11.3	10.5	9.5	8.1	5.9	3.7	1.7	0.5
全国	5.9	45.0	6.0	1.5	5.0	8.5	10.2	10.9	11.3	11.1	10.7	9.7	8.3	6.2	4.0	2.0	0.6

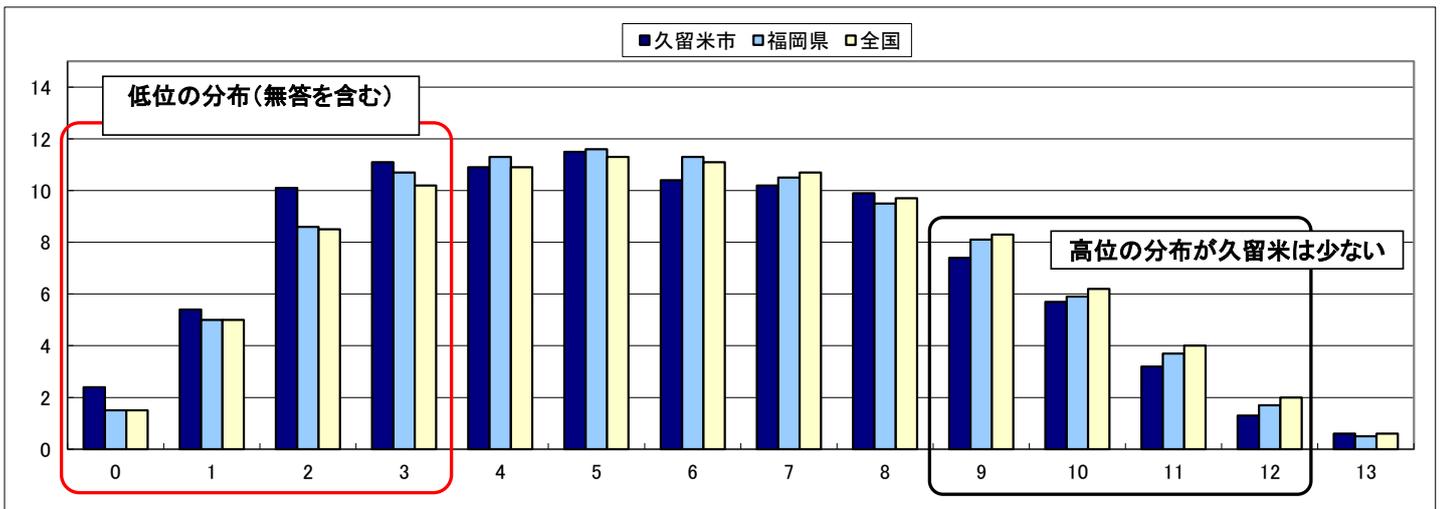
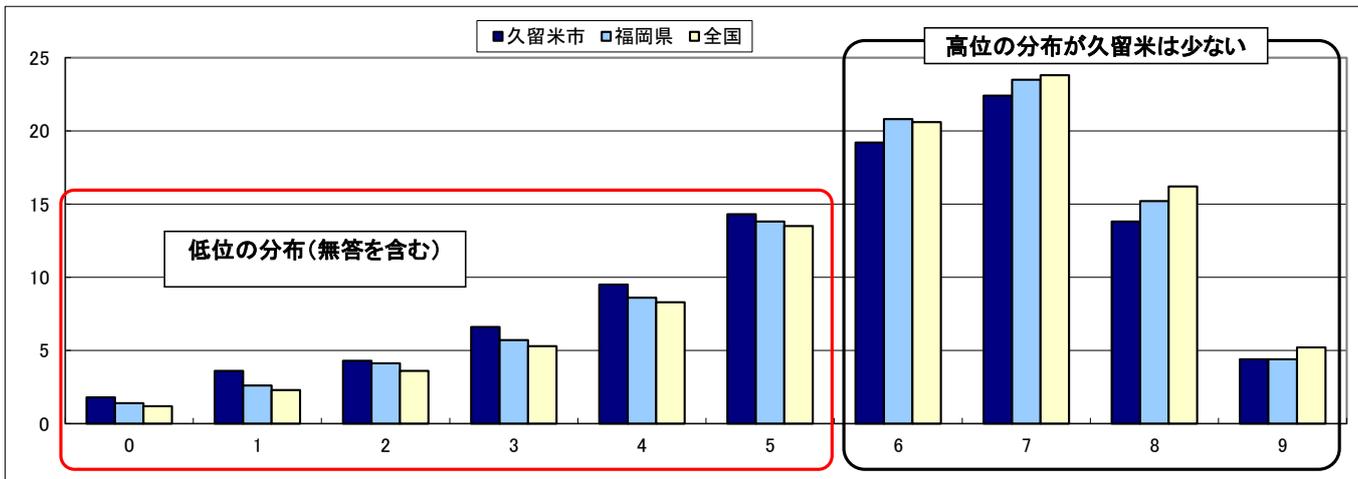


図 1 3 正答数別の分布状況（中学校）

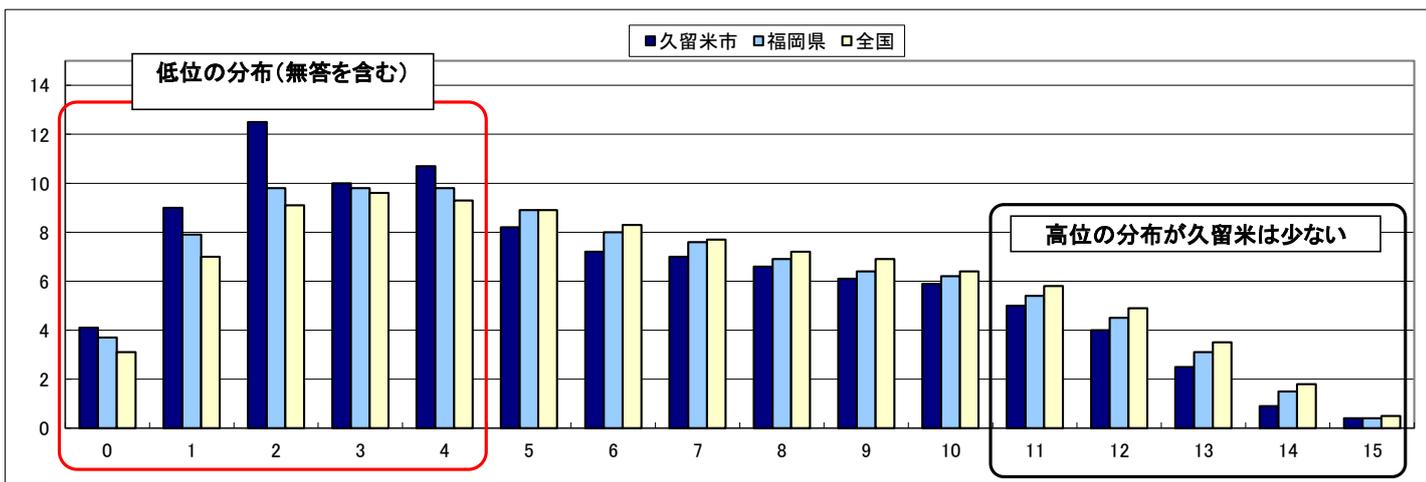
国語B（全9問）

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	正答した問題数別の分布割合									
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
久留米市	5.6	62.6	6.0	1.8	3.6	4.3	6.6	9.5	14.3	19.2	22.4	13.8	4.4
福岡県	5.8	64.5	6.0	1.4	2.6	4.1	5.7	8.6	13.8	20.8	23.5	15.2	4.4
全国	5.9	65.8	6.0	1.2	2.3	3.6	5.3	8.3	13.5	20.6	23.8	16.2	5.2



数学B（全15問）

	平均 正答数	平均 正答率	中央値	正答した問題数別の分布割合															
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
久留米市	5.6	37.3	5.0	4.1	9.0	12.5	10.0	10.7	8.2	7.2	7.0	6.6	6.1	5.9	5.0	4.0	2.5	0.9	0.4
福岡県	6.0	39.8	6.0	3.7	7.9	9.8	9.8	9.8	8.9	8.0	7.6	6.9	6.4	6.2	5.4	4.5	3.1	1.5	0.4
全国	6.2	41.6	6.0	3.1	7.0	9.1	9.6	9.3	8.9	8.3	7.7	7.2	6.9	6.4	5.8	4.9	3.5	1.8	0.5



小学校くるめ学カアップ推進事業

平成28年度予算額

60,378千円

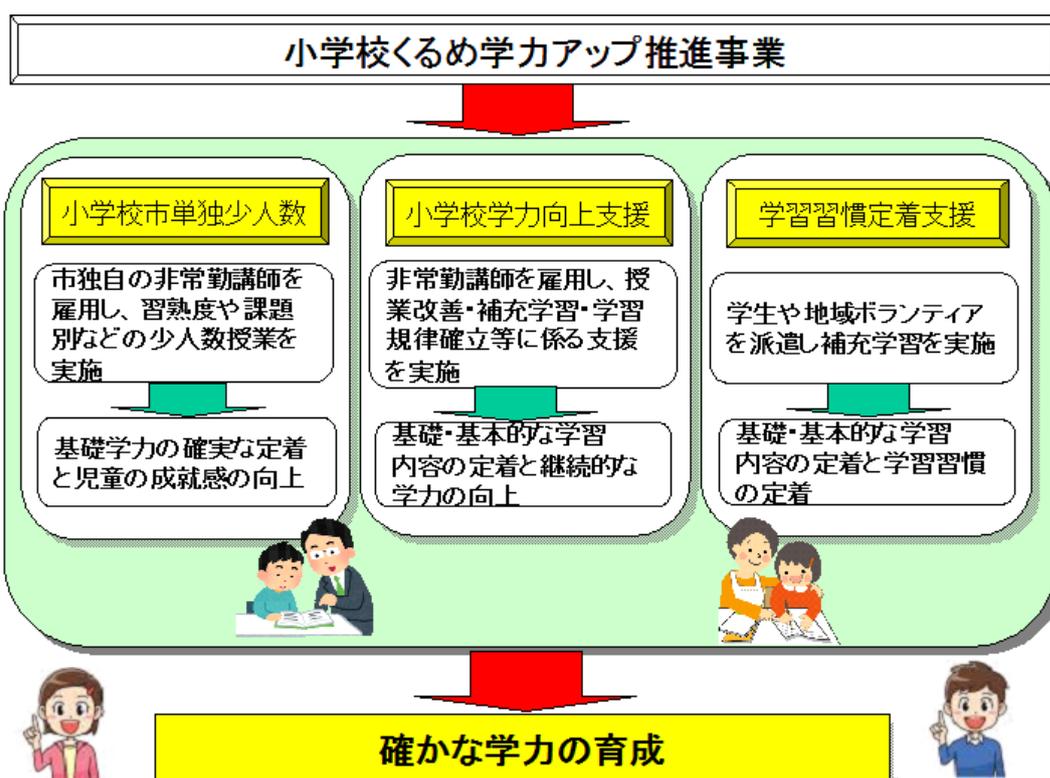
H27: 46,339千円

1 目的

小学校中学年及び5年生児童の確かな学力を育成するために、非常勤講師を派遣し、授業改善・補充学習・学習規律の確立にかかる支援を行う。また、市内全小学校に対して、学生及び地域ボランティアを派遣して行う放課後補充学習を実施することで小学校の学力向上を図る。

2 内容

- (1) 小学校中学年において学力面で課題が見受けられる小学校に対して、学級規模に応じて非常勤講師を配置して習熟度別や課題別などの多様な学習形態による少人数授業を行い、一人一人の児童へのきめ細かな対応を図る。
- (2) 学力等に課題の見られる小学校に対して学校規模に応じて非常勤講師を配置し、各種学力調査の分析に基づいて指導の方向性を示し、学習規律の確立、授業改善、補充学習にかかる支援を行う。
- (3) 全小学校に対して学生、地域ボランティアを派遣し、基礎的・基本的な学習内容の定着と学習習慣の定着を図る。
 - ①放課後、週2回程度（長期休業中も可）
 - ②1回の派遣時間：1時間30分程度
 - ③派遣1回の旅費：1,000円（校区内の地域ボランティアを除く）
 - ④派遣にともなう保険を市で負担、各学校に活動消耗品費を支給



中学校くるめ学力アップ推進事業

平成28年度予算額

33,717千円

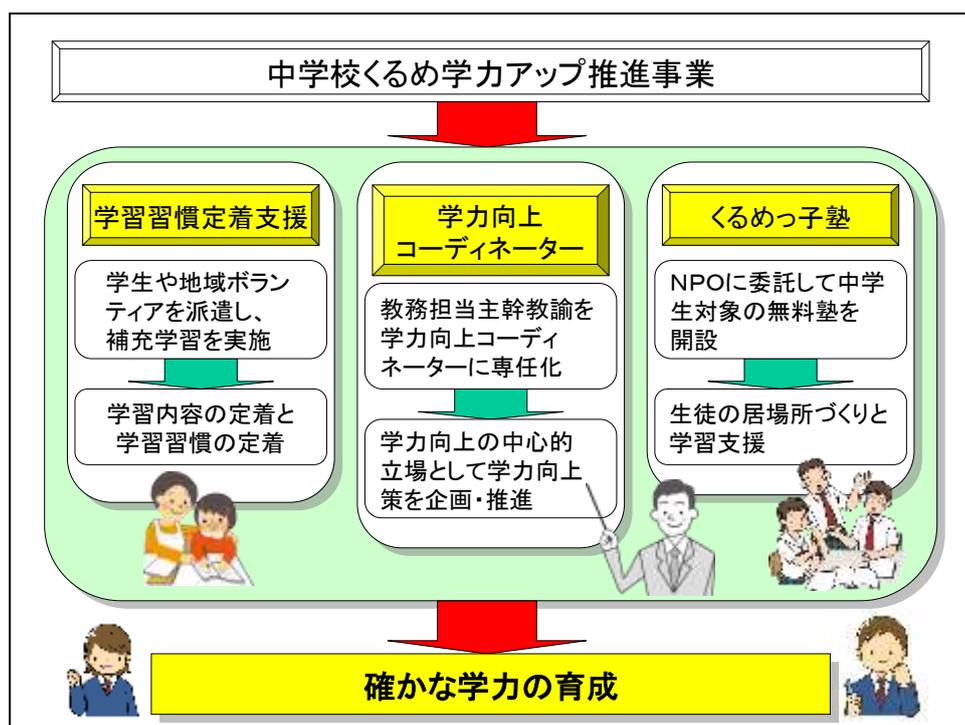
H27: 29,005千円

1 目的

中学校の学力向上を図るため、教務担当主幹教諭を学力向上コーディネーターとして専任化し、学力向上の取組の企画・推進を行えるように、担当する教科の授業については非常勤講師を配当する。また、学習習慣定着に向けた放課後や長期休業中の補充学習の実施のために、学生や地域ボランティアを派遣し、復習や宿題に取り組む学習支援体制の構築を図る。さらに、帰宅後の学習支援を継続的に行うために、中学生を対象とした無料塾を開設し、学校やスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携して支援を行う。

2 内容

- (1) 教務担当主幹教諭を学力向上コーディネーターに専任化し、後補充として非常勤講師を配置する。
- (2) 全中学校に対して学生、地域ボランティアを派遣し、基礎的・基本的な学習内容の定着と学習習慣の定着を図る。
 - ・放課後、週2回程度（長期休業中も可）
 - ・1回の派遣時間：1時間30分程度
 - ・派遣1回の謝金：1,000円（校区内の地域ボランティアを除く）
 - ・派遣にともなう保険を市で負担、各学校に活動消耗品費を支給
- (3) NPOに運営を委託し中学生を対象とした無料塾を開設し、学習支援行う。



方針を意識して方策を行っていきます

方針Ⅰ 基礎・基本の定着

補充学習→学校主体で

小学校

水曜日 朝の国語タイム(全学年)

小学5年 国語

目的や意図を考え、表現を工夫し書く

ポイント

○目的に合った手紙の書き方を理解しましょう。
○意見文の書き方を理解しましょう。

基本問題

次の手紙を読んで、あとのそれぞれの問いに答えをさい。

① 季節となりましたが、山下先生はいかがお過ごしでしょうか。さて、先生が東小学校へ転校されたから、早いもので六か月がたちました。先生には、長い間ぼくたち西小合唱団の指導をしていただき、大変感謝しています。ありがとうございました。ぼくも六年生になり、現在団長としてがんばっています。今年は四年生が五人入団し、団員も全部で十八名になりました。ぼくたちは四月から新しく来られた手島先生の指導のもと、合唱団の活動にはげんでいます。県のコンクールの課題曲にも夏休みのうちから取り組んできた。その成果をたくさんの方々に見ていただくため、十一月八日(日)に学校の体育館で発表会を行う予定です。

②

ちょうどそのころは、正門前のいちような木も伸び始めることでしょうか。では、お体に気をつけてお過ごしください。

平成××年九月十九日

山下 満男 先生

大西 光一

(1) ①に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。
ア 風かおる イ 木がらしのふく
ウ 花々がさきほころ エ 朝夕しのぎやすい

(2) ① 線部「取り組んできた」は、手紙にふさわしい、ていねいな言い方になっていません。ていねいな言い方に直して書いて答えなさい。

(3) ②には、先生を発表会に招待する内容の文が入ります。その文面を、「いそがしい」ということばを用いて、書いて答えなさい。

〔アシストシート 図書文化〕

- 「アシストシート」の基本問題からチャレンジ問題へ
- 適宜、漢字のテストも実施
- 他の曜日には読書や算数タイムも

- 分析で明らかになった「中学年の漢字」「5年生までの話す・書く・読む」の課題に対応
- 担任と特別支援学級担任、管理職の2人体制での指導

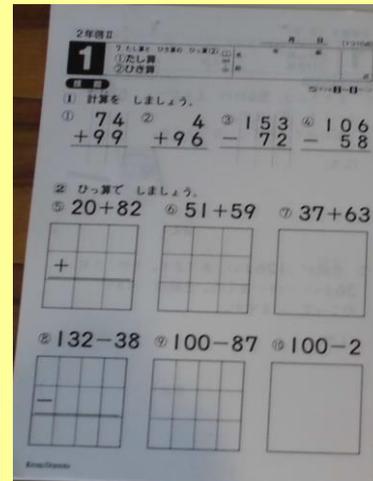
方針を意識して方策を行っていきます

方針Ⅰ 基礎・基本の定着

補充学習→地域と連携して

小学校

月2回 金曜日の放課後 2年生対象



- 担任がプリントを準備
- 地域の方がまる付けや問題の解き方を説明

- 小学校の隣にあるコミュニティセンターで実施
- 学習習慣定着事業(放課後教室)の一環

調査結果と日々の授業をつないで改善を図ります

小学校

平成27年度6年生 全国学力調査を みんなで解いてみよう！！

全国学力調査を解くなかで、子ども達に身につける力を
みんなで考えましょう。

(緊張しないで楽しく解きましょう！！)

研究主任が校内での
学力向上研修会を
コーディネートする。

○研修で実際に調査問題を解き、問題の特徴を把握する。

3

あさ子さんたちは、先生といっしょに、次のようにソフトボール投げの
ラインを引きます。

- ① 直径2mの円のラインを引く。
- ② ①の円の中心を頂点とする
正三角形をつくる。
- ③ ②の正三角形をもとにして
30°の角のラインを引く。
- ④ 残りのラインを引く。

直径2m

30°

まず、円のラインを引きました。

小算B-9

次に、正三角形を下の図のように巻き尺でつくります。

先生は、巻き尺の「0m」のところと「24m」のところを持って、円の
中心に出ました。

そして、あさ子さんとたかしさんに、「まわりの長さが24mの正三角形
になるように巻き尺を持ってください。」と言いました。

たかし
あさ子

円の中心

(1) あさ子さんとたかしさんは、それぞれ巻き尺の何mのところを持ってば
よいですか。答えを書きましょう。

この問題を解くにあたって、どんな力が必要
でしょう？（設問1）

正三角形の性質を基に、示された周の長さから等し
くなる位置を求めることができるかどうか。

○学習指導要領における領域・内容(P106・P141)

【第3学年】C 図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通じて、図形を構成
する要素に着目して、図形について理解できるようにする。

ア 二等辺三角形、正三角形について知ること

【第5学年】A 数と計算

(1) 整数の性質についての理解を深める。

イ 約数、倍数について知ること。

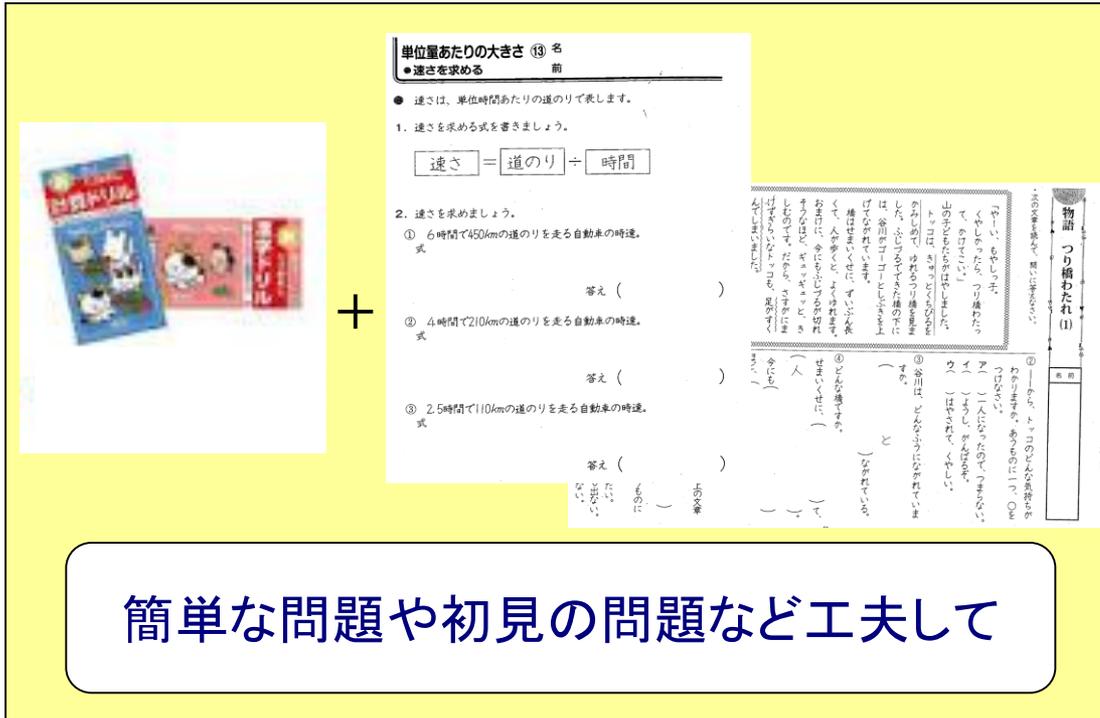
方針を意識して方策を行っていきます

方針Ⅰ 基礎・基本の定着

家庭学習→補充を意識

小学校

学年×10分、宿題の内容を工夫して



簡単な問題や初見の問題など工夫して

- [5年生]
漢字ドリル・計算ドリル
+
2、3、4年生の問題
(プリント)
- [6年生]
漢ド(20分)計ド(15分)
国・算プリント(25分)
※時には社・理も

- 低・中学年の問題→できると言う自信、反復による定着
- 最後まで問題を解く粘り強さ→無答率の減少

方針を意識して方策を行っていきます

方針Ⅰ 基礎・基本の定着

補充学習→学校主体

中学校

「放課後チャレンジ学習塾」にひと工夫



- 場所：職員室前の廊下
- 参加方法：
登録制（保護者・顧問の許可、欠席連絡）
週1回（月～水のうち）
1時間の学習

- 場所を職員室前廊下に移動することで職員も多くが参加
- 登録制にし、週1回1時間の参加で部活動との両立

方針を意識して方策を行っていきます

方針Ⅰ 基礎・基本の定着

家庭学習→補充を意識

中学校

学年統一宿題と月曜テストで定着を図る

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1 元日	2	3	4
	6	7	8	9	10	11
	13	14	15	16	17	18
	20	21	22	23	24	25
	27	28	29	30	31	1
3	4	5	6	7	8	9

- 学年統一の宿題(プリント)
- 週ごとに各教科で作成
(1日10問ずつ)
- 問題は調査問題等を活用
- 翌週の月曜日に確認テスト
- 確認テストは再テストあり

- 教科担任が週ごとに宿題を作成し、学年全体の課題とすることで、家庭での学習習慣の定着を図る。
- 確認テストで基礎・基本の定着を図る。